

令和2年
岩手県教育委員会定例会
10月

岩 手 県 教 育 委 員 会

令和2年10月 岩手県教育委員会定例会議事日程

令和2年10月22日（木）午後1時30分

第1 議席の決定

第2 会期決定の件

第3 事務報告1 令和3年度岩手県立高等学校入学者選抜の実施について (学校教育課)

第4 事務報告2 令和3年度岩手県立特別支援学校高等部の学級数等について (学校教育課)

第5 議案第20号 岩手県立高等学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則 (学校調整課)

第6 議案第21号 文化財の指定及び保持団体の認定並びに追加指定に関し議決を求めることについて (生涯学習文化財課)

第7 議案第22号 教育表彰の受賞者に関し議決を求めることについて (教育企画室)

第8 議案第23号 令和3年度岩手県教育委員会定期人事異動方針に関し議決を求めることについて (教職員課)

第9 議案第24号 学校職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて (教職員課)

閉会

事務報告 1

令和3年度岩手県立高等学校入学者選抜の実施について

I 令和3年度岩手県立高等学校第1学年募集定員について

1 令和3年3月中学校・義務教育学校卒業見込者数

| | | |
|------------|------------|------|
| 令和3年3月卒業見込 | 令和2年3月卒業見込 | 増 減 |
| 10,083 | 10,680 | -597 |

(学校基本統計速報)

2 募集定員

全日制

8,960名 (昨年と同じ)

62校 (全て本校)

| 年度\学科 | 普通 | 普通・理数 | 総合 | 体育 | 小計 |
|-------|-------|-------|-------|----|-------|
| R3 | 4,240 | 880 | 1,040 | 40 | 6,200 |
| R2 | 4,240 | 880 | 1,040 | 40 | 6,200 |
| 前年比 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| 年度\学科 | 農業 | 工業 | 商業 | 水産 | 家庭 | 小計 | 合計 |
|-------|-----|-------|-----|----|-----|-------|-------|
| R3 | 520 | 1,280 | 720 | 80 | 160 | 2,760 | 8,960 |
| R2 | 520 | 1,280 | 720 | 80 | 160 | 2,760 | 8,960 |
| 前年比 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

定時制

560名 (昨年と同じ)

9校 (本校7校、分校2校)

| 年度\学科 | 普通 | 工業 | 合計 |
|-------|-----|----|-----|
| R3 | 520 | 40 | 560 |
| R2 | 520 | 40 | 560 |
| 前年比 | 0 | 0 | 0 |

【備考】

- ・ 盛岡市立高等学校を除いた数値であること。
- ・ 入学者選抜を実施する学校数 65本分校 (62 + 9 - 6 = 65本分校)

| 全日制 | 定時制 | 全日制・定時制併設校 |
|--------|-------------|--------------------------|
| 62校 | 9校 | 6校 |
| (全て本校) | (本校7校、分校2校) | (盛岡工業、一関第一、大船渡、釜石、宮古、福岡) |

II 主な入試日程

| | | |
|----|---|---------------------|
| 1 | 入試事務説明会（6教育事務所） | 10月26日（月）～10月30日（金） |
| 2 | 推薦入学者選抜 検査期日 | 1月27日（水） |
| 3 | 推薦入学者合格通知 | 2月3日（水） |
| 4 | 一般（定時制成人枠を含む）・連携型・杜陵高校定時制（前期日程）入学者選抜 検査期日 | 3月9日（火） |
| 5 | 追検査 | 3月19日（金） |
| 6 | 合格者発表 | 3月23日（火） |
| 7 | 二次募集・杜陵高校定時制（後期日程）入学者選抜 検査期日 | 3月29日（月） |
| 8 | 二次募集・杜陵高校定時制（後期日程）合格者発表 | 3月31日（水） |
| 9 | 通信制入学者選抜 | 4月2日（金） |
| 10 | 通信制合格者発表 | 4月5日（月） |

III 令和3年度入学者選抜の方法

1 推薦入学者選抜

(1) 対象学科

全日制・定時制の全学科において実施することができる。

(2) 応募資格

次のア～オの全てに該当する者

ア 岩手県内の中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程、特別支援学校中学部（以下「中学校等」という。）を令和3年3月に卒業する見込みの者、若しくは令和2年3月に卒業した者

又は、令和3年3月に中学校等を卒業する見込みの者、若しくは令和2年3月に中学校等を卒業した者のうち、東日本大震災津波の被災により、岩手県内から県外に転学した者と岩手県教育委員会が認めた者

ただし、種市高等学校海洋開発科を志願する場合は、令和3年3月に中学校等を卒業する見込みの者、若しくは令和2年3月に中学校等を卒業した者

イ 当該高等学校に合格した場合、学力調査を受け、入学を確約できる者

ウ 当該高等学校の教育を受けるに足る能力・適性を持つ者

エ 次の応募資格A又は応募資格Bに該当する者

応募資格A スポーツ、文化・芸術、特別活動（生徒会活動等）、その他校内外の活動（ボランティア活動、地域貢献活動等）において顕著な実績を持つ者

応募資格B 将来の職業選択や社会貢献に強い意欲を持っている者

オ 当該高等学校の示す推薦基準を満たしている者

（推薦入学者選抜を実施する各高等学校の各学科（学系・コース）の推薦基準は、別に定める。）

(3) 募集定員

ア 定員の10%以内とする。

ただし、体育科、体育コース、体育学系、スポーツ健康科学学系及び芸術学系については、50%以内とする。

また、普通科、普通・理数科及び体育科以外の学科のうち、応募資格A及び応募資格Bの両方で募集する学科は、次の（ア）又は（イ）の割合とする。

（ア）動物科学科、植物科学科、食品科学科、人間科学科、環境科学科、生物科学科、食農科学科、農業科学科、生産技術科及び農芸科学科は20%以内とする。

（イ）上記（ア）以外の学科は15%以内とする。

なお、定員の割合は5%ごととする。

イ 県のスポーツ特別強化指定校においては、当該指定競技に係る人数を推薦募集定員の中に入れ

ることとする。

ウ 推薦入学者選抜実施校の各学科（学系・コース）の推薦募集定員は、別に示す。

(4) 通学区域

岩手県立高等学校の通学区域に関する規則により、学区の制限を受けない。

(5) 出願制限

ア 出願は、本校又は分校1校に限るものとする。

イ 志願先高等学校に二つ以上の学科（学系・コース）がある場合には、第2、第3志望まで出願することができる。

ただし、異なる適性検査を実施する学科（学系・コース）への出願は二つまでとする。

学科（学系・コース）により推薦基準が異なる場合には、志願する全ての学科（学系・コース）の推薦基準を満たさなければならないものとする。

ウ 岩手県立高等学校の推薦・連携型入学者選抜と盛岡市立高等学校の推薦入学者選抜に併願することはできない。

エ 一関第一高等学校（全日制課程）の入学決定通知書の交付を受けた者は、推薦入学者選抜に出願することはできない。

(6) 検査内容

ア 調査書、志願理由書及び面接

イ 高等学校によっては、小論文又は作文、適性検査を実施することができる。

（各高等学校の各学科（学系・コース）の検査内容は、別に定める。）

(7) 選抜方法

上記（6）の検査の結果により行う。

（各高等学校の各学科（学系・コース）の選抜方法は、別に定める。）

(8) 1月27日（水）の検査を受検できない志願者への対応

ア 志願者のうち、検査期日において、次の（ア）～（ウ）のいずれかに該当する者は検査を欠席することとする。

（ア）新型コロナウイルス感染症の感染者のうち治癒していない者、濃厚接触者のうち健康観察期間中の者、感染者又は濃厚接触者である疑いがある者

（イ）インフルエンザ等により、検査を受検できない者

（ウ）その他真にやむを得ない事情により受検できない者

イ 選抜方法

調査書及び志願理由書に記載された内容を参考にしながら、各高等学校の各学科（学系・コース）の選抜方法に基づいて行う。

(9) 合格者への対応

ア 高等学校長は、合格者を対象とする学力調査を、3月9日（火）に実施する。

イ 調査教科は5教科（国語、数学、社会、英語、理科）とし、一般入学者選抜学力検査と同じ問題及び時程で実施する。

なお、学力調査は、原則として一般入学者選抜学力検査と部屋を別にして実施する。

ウ 高等学校長は、合格者が正当な事由なく学力調査を欠席した場合、高校教育課長と協議の上、合格を取り消すことがある。

エ 学力調査の結果については、各高等学校が本人に通知する。

なお、通知の方法は各高等学校が定める。

2 一般入学者選抜

(1) 応募資格

次のア～ウのいずれかに該当する者

ア 令和3年3月に中学校等を卒業する見込みの者

- イ 中学校等を卒業した者
- ウ 学校教育法施行規則第95条の規定に該当する者

(2) 通学区域

岩手県立高等学校の通学区域に関する規則による。

また、東日本大震災津波の被災により、出願すべき高等学校以外の高等学校に出願する場合の取扱は、岩手県立高等学校の通学区域に関する規則第4条第5号によるものとする。

(3) 出願制限

ア 出願は、本校又は分校1校に限るものとする。

(ア) 志願先高等学校に二つの課程（全日制、定時制）又は二つ以上の学科（学系・コース）がある場合には、第2、第3志望まで出願することができる。

ただし、異なる適性検査を実施する学科（学系、コース）への出願は二つまでとする。

(イ) 多部制の定時制課程においては、部の間で第2志望まで出願することができる。

イ 推薦入学者選抜の合格者は出願できない。

ウ 盛岡市立高等学校の一般入学者選抜に併願することはできない。

エ 連携型入学者選抜に併願することはできない。

オ 一関第一高等学校（全日制課程）の入学決定通知書の交付を受けた者は、出願することはできない。

(4) 検査内容

※ 新型コロナウイルス感染症対策として、面接は行わない。

ア 学力検査（国語、数学、社会、英語、理科の5教科）

イ 調査書

ウ 小論文又は作文（実施する学科（学系・コース）は、別に示す。）

エ 適性検査（実技等）（実施する学科（学系・コース）は、下記（9）のとおりとする。）

(5) 日程

ア 集合時刻 8:30（又は8:20）

※ 検査場への入場時に混雑が予想される学校においては、受検者によって集合時刻を別にする。

イ 学力検査 9:10～15:25（各教科50分）

(6) 出題方針

中学校学習指導要領に示されている各教科の目標や内容に則し、基礎的・基本的な知識及び技能や、これらを活用して問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を検査できるようにする。

(7) 各検査の配点

| | | | |
|----------------------|------------|------|-------|
| 学力検査（5教科各100点満点） | 500点 | | 1000点 |
| 調査書（9教科の1・2・3年の評定） | 440点 | 500点 | |
| 小論文又は作文、適性検査（実技等）の合計 | 60点 （※） | | |

※ 小論文又は作文、適性検査（実技等）を実施しない学科（学系・コース）においては0点とする。

(8) 小論文又は作文

各高等学校長の判断により、小論文又は作文を実施することができる。

(9) 適性検査（実技等）

体育科、体育コース、体育学系、スポーツ健康科学学系及び芸術学系において実施する。

（該当校は、盛岡南高等学校、不来方高等学校、花巻南高等学校）

(10) 選抜方法

ア 選抜は、各高等学校において次の選抜方法により学校、学科（学系・コース）の特色に配慮し

ながら、その教育において必要とされる能力・適性等を総合的に判定して行う。

イ 以下の【A選考】、【B選考】、【C選考】により選考を行うこととする。

(ア) 【A選考】

「学力検査の成績」と「調査書の学習の記録、小論文又は作文、適性検査（実技等）の評価」とを5：5に取り扱い、選考する。

(イ) 【B選考】

「学力検査の成績」と「調査書の学習の記録、小論文又は作文、適性検査（実技等）の評価」とを3：7に取り扱い、選考する。

(ウ) 【C選考】

「学力検査の成績」と「調査書の学習の記録、小論文又は作文、適性検査（実技等）の評価」とを7：3に取り扱い、選考する。

ウ 【A選考】、【B選考】、【C選考】による選考方法については、各高等学校長が次の表の7通りの中から選択・決定することとする。なお、選考にあたっては 選考Ⅰ → 選考Ⅱ → 選考Ⅲ の順で行うこととする。

| 選抜方法 | 選考Ⅰ | 選考Ⅱ | 選考Ⅲ |
|------|----------|---------|---------|
| ① | A選考 100% | | |
| ② | A選考 70% | B選考 30% | |
| ③ | A選考 70% | B選考 20% | C選考 10% |
| ④ | A選考 70% | B選考 10% | C選考 20% |
| ⑤ | A選考 70% | C選考 30% | |
| ⑥ | A選考 70% | C選考 20% | B選考 10% |
| ⑦ | A選考 70% | C選考 10% | B選考 20% |

(11) 新型コロナウイルス感染症の感染者又は濃厚接触者等

ア 志願者のうち、検査期日において、次の(ア)～(ウ)のいずれかに該当する者は3月9日(火)に実施する検査(以下「本検査」という。)を欠席することとする。

(ア) 感染者のうち治癒していない者

(イ) 濃厚接触者のうち健康観察期間中の者

(ウ) 感染者又は濃厚接触者である疑いがある者

イ 上記ア(ア)のうち3月18日(木)までに治癒しない者及び上記ア(ウ)のうち感染者となった者で3月18日(木)までに治癒しない者は、下記(12)の追検査も欠席することとする。

ウ 上記イの者の選抜方法

調査書に記載された内容に基づいて、総合的に判定して行う。

(12) 追検査

ア 対象者

次の(ア)～(カ)のいずれかに該当する者で、本検査を受検できない者

なお、本検査を一部でも受検した者は、追検査の対象とはならない。

(ア) 上記(11)ア(ア)の者のうち、3月18日(木)までに治癒した者

(イ) 上記(11)ア(イ)の者

(ウ) 上記(11)ア(ウ)の者のうち、感染者及び濃厚接触者である疑いなくなった者、濃厚接触者となった者、感染者となった者で3月18日(木)までに治癒した者

(エ) 医療機関において医師からインフルエンザ等の診断を受け、本検査を受検できない者

(オ) 本検査前日及び当日にインフルエンザ等の症状を発症し、本検査を受検できない者

(カ) その他真にやむを得ない事情により本検査を受検できない者

イ 検査内容

本検査と同じとする。ただし、学力検査、小論文又は作文は、追検査用に用意したもので行う。

ウ 日程及び実施内容

(ア) 検査期日 令和3年3月19日(金)

(イ) 検査場 志願先高等学校

(ウ) 実施内容等 本検査と同じとする。

エ 選抜方法

本検査と追検査の成績は同等に扱い、本検査を受検した者と追検査を受検した者を一括して選抜する。

(13) 学力検査等成績の通知

ア 通知する内容

教科別得点及び合計点、調査書の換算合計点、面接等の得点(小論文又は作文、適性検査(実技等)の得点)

イ 通知の方法

(ア) 志願先高等学校長は、次の書類を、選考結果通知書及び合格通知書の送付とあわせて当該中学校長あて送付する。(中学校での受取ができない者については、直接本人に送付する。)

- ・ 学力検査等成績通知書(通知用封筒に封入し、厳封したもの)
- ・ 受取確認表

(イ) 中学校長は、厳封した状態の学力検査等成績通知書を受検者に手渡し、受取確認表に署名させる。また、3月31日(水)までに、次の書類を高等学校長あて返送する。

- ・ 受検者が署名済みの受取確認表
- ・ 受検者が受け取らなかった学力検査等成績通知書

ウ その他

本検査及び追検査を受検しなかった者には通知しない。

3 一般入学者選抜(定時制課程成人枠)

(1) 対象学科

定時制の全学科

(2) 応募資格

平成12年4月1日までに生まれた者で、次のア又はイのいずれかに該当する者

ア 中学校等を卒業した者

イ 学校教育法施行規則第95条の規定に該当する者

(3) 募集人数

若干名

(4) 検査内容

ア 面接

イ 作文又は小論文

ウ 高等学校によっては、適性検査を実施することができる。

4 二次募集

(1) 二次募集を行う学科(学系・コース)

欠員が、定員の10%以上である学科(学系・コース)で実施する。ただし、欠員が定員の10%未満でも、学校の判断で実施することができる。

なお、杜陵高等学校は二次募集を行わない。

(2) 応募資格

ア 令和3年度岩手県立高等学校一般入学者選抜(定時制課程成人枠含む)又は連携型入学者選抜、若しくは盛岡市立高等学校一般入学者選抜を受検し、合格しなかった者

イ やむを得ない事情で、令和3年度岩手県立高等学校一般入学者選抜(定時制課程成人枠含む)

又は連携型入学者選抜、若しくは盛岡市立高等学校一般入学者選抜を受検しなかった者

(3) 検査内容

- ア 調査書、面接
- イ 小論文又は作文

5 連携型入学者選抜(軽米高等学校・葛巻高等学校)

(1) 応募資格

令和3年3月に連携型中学校（軽米高等学校においては軽米町立軽米中学校をいう。葛巻高等学校においては葛巻町立葛巻中学校、葛巻町立小屋瀬中学校、葛巻町立江刈中学校をいう。）を卒業する見込みの者

(2) 募集定員

軽米高等学校及び葛巻高等学校の定員を上限とする。

(3) 選抜方法

国語、数学、社会、英語、理科の5教科に関する基礎学力を確認のうえ、連携型中学校長から提出された調査書に基づき合格者を決定する。

なお、基礎学力の確認は、一般入学者選抜学力検査で使用する検査問題と同じ問題で実施する。

6 一関第一高等学校附属中学校（併設型中高一貫教育校）からの入学

(1) 一関第一高等学校附属中学校の生徒が一関第一高等学校（全日制課程）に入学を希望する場合は、一関第一高等学校附属中学校長（以下「附属中学校長」という。）が指定する期日までに、入学願を附属中学校長に提出する。ただし、特別な事情により一関第一高等学校（全日制課程）に入学を希望しない場合は、その旨を記載した書面（入学辞退届）を附属中学校長に提出する。

(2) 附属中学校長は、一関第一高等学校長が指定する期日までに、入学願を一関第一高等学校長に提出する。

(3) 入学願を提出した者については、一関第一高等学校（全日制課程）への入学者選抜を行わない。

(4) 入学辞退届を提出した者については、当該年度において一関第一高等学校（全日制課程）に出願することはできない。ただし、一関第一高等学校長が認めた場合はこの限りでない。

(5) 入学者の決定・発表

ア 一関第一高等学校長は、入学願を提出した者について入学を決定し、附属中学校長に「入学決定通知書」を送付する。

イ 入学決定者数の発表は、令和3年2月3日（水）に行う。

(6) 入学決定通知書の交付を受けた者は、推薦入学者選抜及び一般入学者選抜に出願することはできない。

7 杜陵高等学校定時制課程入学者選抜

(1) 募集定員

- ア 本校 160名（1・2部 120名、3部 40名）
 - 前期日程 100名（1・2部 80名、3部 20名）
 - 後期日程 60名（1・2部 40名、3部 20名）

- イ 奥州校 80名
 - 前期日程 60名（昼間部 30名、夜間部 30名）
 - 後期日程 20名（昼間部 10名、夜間部 10名）

(2) 選抜方法（学力検査及び面接等）

前期日程 国語、数学、社会、英語、理科の5教科（一般入学者選抜学力検査で使用する検査問題と同じ問題で実施する。）及び調査書

後期日程 作文、面接及び調査書

8 通信制課程入学者選抜

- (1) 募集定員
 杜陵高等学校（本校・奥州校） 220 名
 宮古高等学校 80 名
- (2) 選考方法
 提出された書類、作文及び面接によって行う。

9 県外からの志願者受入れ

- (1) 実施方針
 ア 次の（ア）～（ウ）の全てに該当する全日制・定時制の学科（学系・コース）において、県教育委員会と協議した上で行う。
 （ア）地域人材の育成やふるさと振興の視点から、学校と地域が連携する体制が整っている学科（学系・コース）
 （イ）入学後の居住環境について紹介できる体制が整っている学科（学系・コース）
 （ウ）県内生徒の学ぶ機会を妨げないと考えられる学科（学系・コース）
 イ 開始から3年ごとに受入れの継続について県教育委員会と実施高等学校が協議する。
 ウ 特定の部活動への参加を条件とする受入れは行わないものとする。
 エ 一般入学者選抜において実施する。
- (2) 通学区域の取扱い
 ア 普通科への志願を承認された者は、学区外の志願者として扱う。
 イ 普通科以外の学科への志願を承認された者は、「県外」（普通科の学区外の取扱いに準じる）の志願者として扱う。
- (3) 実施校

| 学校名 | 学 科 | 募集定員 | 対象となる入学者選抜 |
|------|-------------|------|-------------|
| 平舘 | 普通科、家政科学科 | 各4名 | 令和2年度～令和4年度 |
| 遠野 | 普通科 | 3名 | |
| 遠野緑峰 | 生産技術科、情報処理科 | 各4名 | |
| 住田 | 普通科 | 4名 | |
| 大槌 | 普通科 | 8名 | |
| 伊保内 | 普通科 | 4名 | 令和3年度～令和5年度 |
| 一戸 | 総合学科 | 5名 | |

※ 一般入学者選抜の志願者数が一般入学者選抜の募集定員を超えない学科においては、県外からの志願者受入れの募集定員を超えた数の県外からの受検者を合格とすることができる。

- (4) 特例として県外からの志願者の受入れを実施する学校
 入学者数の制限を設けずに、特例として県外からの志願者の受入れを実施する学校への志願の取扱いについては、次のとおりとする。
 なお、志願が承認された者は、学区内の志願者として扱う。

| 学校名 | 学 科 | 対象者 |
|------|-------|---------------------|
| 水沢農業 | 農業科学科 | 学校設定科目「馬学」の履修を希望する者 |
| 種市 | 海洋開発科 | 志願者全て |
| 葛巻 | 普通科 | 「くずまき山村留学生」の候補者 |
| 大迫 | 普通科 | 「高校生おおはさま留学生」の候補者 |

令和3年度岩手県立高等学校入学者選抜実施概要一覧表

| No | 学校名 | 学 科 名 | | 定員 | 推薦入学者選抜 | | | | 一般入学者選抜 | | | | | | | 備考 | | | |
|----|-------|---------|----------|-----|---------|------|------|----|------------|-----|-----|-----------------|------|-----------------|------|----|--------------|-------|---|
| | | | | | 実施の有無 | 応募資格 | 募集定員 | | 選抜順序・割合(%) | | | 小論文又は作文、適性検査の有無 | | 小論文又は作文、適性検査の配点 | | | 傾斜配点の有無とその内容 | 県外受入れ | |
| | | | | | | | % | 人 | I | II | III | 小論文 作文 | 適性検査 | 小論文 作文 | 適性検査 | | | 有・無 | 人 |
| 1 | 盛岡第一 | 普通・理数 | | 280 | 有 | A | 10 | 28 | A70 | C30 | | | | | | | 無 | <<リ募集 | |
| 2 | 盛岡第二 | 普通 | | 200 | 有 | A | 10 | 20 | A70 | B20 | C10 | | | | | | 無 | | |
| 3 | 盛岡第三 | 普通 | | 280 | 有 | A | 10 | 28 | A70 | B10 | C20 | | | | | | 無 | | |
| 4 | 盛岡第四 | 普通 | | 240 | 有 | A | 10 | 24 | A100 | | | | | | | | 無 | | |
| 5 | 盛岡北 | 普通 | | 200 | 有 | A | 10 | 20 | A100 | | | | | | | | 無 | | |
| 6 | 盛岡南 | 普通 | | 160 | 有 | A | 10 | 16 | A70 | B30 | | | | | | | 無 | | |
| | | 体育コース | | 40 | 有 | A | 50 | 20 | A70 | B30 | | 実技 | 30 | | | | 無 | | |
| 7 | 不來方 | 普通 | 人文・理数 | 160 | 有 | A | 10 | 16 | A70 | B20 | C10 | | | | | | 無 | | |
| | | | 芸術 | 40 | 有 | A | 40 | 16 | A70 | B30 | | 実技 | 50 | | | | 無 | | |
| | | | 外国語 | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A70 | B20 | C10 | | | | 英語2倍 | | 無 | | |
| | | | 体育 | 40 | 有 | A | 50 | 20 | A70 | B30 | | 実技 | 30 | | | | 無 | | |
| 9 | 盛岡農業 | 動物科学 | | 40 | 有 | AB | 20 | 8 | A100 | | | | | | | | 無 | | |
| | | 植物科学 | | 40 | 有 | AB | 20 | 8 | A100 | | | | | | | | 無 | | |
| | | 食品科学 | | 40 | 有 | AB | 20 | 8 | A100 | | | | | | | | 無 | | |
| | | 人間科学 | | 40 | 有 | AB | 20 | 8 | A100 | | | | | | | | 無 | | |
| | | 環境科学 | | 40 | 有 | AB | 20 | 8 | A100 | | | | | | | | 無 | | |
| 10 | 盛岡工業 | 機械 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A70 | B20 | C10 | | | | | | 無 | | |
| | | 電気 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A70 | B20 | C10 | | | | | | 無 | | |
| | | 電子情報 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A70 | B20 | C10 | | | | | | 無 | | |
| | | 電子機械 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A70 | B20 | C10 | | | | | | 無 | | |
| | | 工業化学 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A70 | B20 | C10 | | | | | | 無 | | |
| | | 土木 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A70 | B20 | C10 | | | | | | 無 | | |
| | | 建築・デザイン | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A70 | B20 | C10 | | | | | | 無 | | |
| 11 | 盛岡商業 | 流通ビジネス | | 80 | 有 | AB | 15 | 12 | A70 | C20 | B10 | | | | | | 無 | | |
| | | 会計ビジネス | | 80 | 有 | AB | 15 | 12 | A70 | C20 | B10 | | | | | | 無 | | |
| | | 情報ビジネス | | 80 | 有 | AB | 15 | 12 | A70 | C20 | B10 | | | | | | 無 | | |
| 12 | 沼宮内 | 普通 | | 80 | 有 | A | 10 | 8 | A100 | | | | | | | 無 | | | |
| 13 | 葛巻 | 普通 | | 80 | 有 | A | 10 | 8 | A100 | | | | | | | 有 | ※1 | | |
| 14 | 平舘 | 普通 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A70 | B30 | | | | | | 有 | 4 | | |
| | | 家政科学 | | 40 | 有 | AB | 10 | 4 | A70 | B30 | | | | | | 有 | 4 | | |
| 15 | 雫石 | 普通 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A70 | B20 | C10 | | | | | 無 | | | |
| 16 | 紫波総合 | 総合 | | 160 | 有 | AB | 15 | 24 | A70 | B30 | | | | | | | 無 | | |
| 17 | 花巻北 | 普通 | | 240 | 有 | A | 10 | 24 | A100 | | | | | | | | 無 | | |
| 18 | 花巻南 | 普通 | 人文・自然科学 | 120 | 有 | A | 10 | 12 | A70 | C30 | | | | | | | 無 | | |
| | | | スポーツ健康科学 | 40 | 有 | A | 50 | 20 | A70 | B30 | | 実技 | 30 | | | | 無 | | |
| | | | 国際科学 | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A70 | C30 | | | | 英語2倍 | | | 無 | | |
| 19 | 花巻農業 | 生物科学 | | 40 | 有 | AB | 20 | 8 | A100 | | | | | | | | 無 | | |
| | | 環境科学 | | 40 | 有 | AB | 20 | 8 | A100 | | | | | | | | 無 | | |
| | | 食農科学 | | 40 | 有 | AB | 20 | 8 | A100 | | | | | | | | 無 | | |
| 20 | 花北青雲 | 情報工学 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A100 | | | | | | | | 無 | | |
| | | ビジネス情報 | | 80 | 有 | A | 10 | 8 | A100 | | | | | | | | 無 | | |
| | | 総合生活 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A100 | | | | | | | | 無 | | |
| 21 | 大迫 | 普通 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A100 | | | | | | | 有 | — | | |
| 22 | 遠野 | 普通 | | 160 | 有 | A | 10 | 16 | A70 | B30 | | | | | | 有 | 3 | | |
| 23 | 遠野緑峰 | 生産技術 | | 40 | 有 | AB | 20 | 8 | A70 | B30 | | | | | | | 有 | 4 | |
| | | 情報処理 | | 40 | 有 | AB | 15 | 6 | A70 | B30 | | | | | | | 有 | 4 | |
| 24 | 黒沢尻北 | 普通 | | 240 | 有 | A | 10 | 24 | A70 | B10 | C20 | | | | | 無 | | | |
| 25 | 北上翔南 | 総合 | | 200 | 有 | A | 10 | 20 | A100 | | | | | | | | 無 | | |
| 26 | 黒沢尻工業 | 機械 | | 40 | 有 | AB | 15 | 6 | A100 | | | | | | | | 無 | | |
| | | 電気 | | 40 | 有 | AB | 15 | 6 | A100 | | | | | | | | 無 | | |
| | | 電子 | | 40 | 有 | AB | 15 | 6 | A100 | | | | | | | | 無 | | |
| | | 電子機械 | | 40 | 有 | AB | 15 | 6 | A100 | | | | | | | | 無 | | |
| | | 土木 | | 40 | 有 | AB | 15 | 6 | A100 | | | | | | | | 無 | | |
| | | 材料技術 | | 40 | 有 | AB | 15 | 6 | A100 | | | | | | | | 無 | | |
| 27 | 西和賀 | 普通 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A100 | | | | | | | 無 | | | |
| 28 | 水沢 | 普通・理数 | | 240 | 有 | A | 10 | 24 | A70 | B20 | C10 | | | | | 無 | <<リ募集 | | |
| 29 | 水沢農業 | 農業科学 | | 40 | 有 | AB | 20 | 8 | A70 | B30 | | | | | | | 有 | — | |
| | | 食品科学 | | 40 | 有 | AB | 20 | 8 | A70 | B30 | | | | | | | 無 | | |

| No | 学校名 | 学 科 名 | | 定員 | 推薦入学者選抜 | | | | 一般入学者選抜 | | | | | | | | 備考 | | | | |
|----|------|----------|--|-----|---------|------|------|----|------------|-----|-----|-----------------|-----|-----------------|------|--------------|----|-----------|----------|-----|---|
| | | | | | 実施の有無 | 応募資格 | 募集定員 | | 選抜順序・割合(%) | | | 小論文又は作文、適性検査の有無 | | 小論文又は作文、適性検査の配点 | | 傾斜配点の有無とその内容 | | 県外受入れ | | | |
| | | | | | | | | | % | 人 | I | II | III | 小論文 作文 | 適性検査 | | | 小論文 作文 | 適性検査 | 有・無 | 人 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 30 | 水沢工業 | 機械 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| | | 電気 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| | | 設備システム | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| | | インテリア | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| 31 | 水沢商業 | 商業 | | 40 | 有 | AB | 15 | 6 | A70 | B20 | C10 | | | | | | | 無 | | | |
| | | 会計ビジネス | | 40 | 有 | AB | 15 | 6 | A70 | B20 | C10 | | | | | | | 無 | | | |
| | | 情報システム | | 40 | 有 | AB | 15 | 6 | A70 | B20 | C10 | | | | | | | 無 | | | |
| 32 | 前沢 | 普通 | | 80 | 有 | A | 10 | 8 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| 33 | 金ヶ崎 | 普通 | | 80 | 有 | A | 10 | 8 | A70 | C20 | B10 | | | | | | | 無 | | | |
| 34 | 岩谷堂 | 総合 | | 160 | 有 | AB | 15 | 24 | A70 | B20 | C10 | | | | | | | 無 | | | |
| 35 | 一関第一 | 普通・理数 | | 200 | 有 | A | 10 | 20 | A100 | | | | | | | | | 無 | <<り募集 ※2 | | |
| 36 | 一関第二 | 総合 | | 200 | 有 | A | 10 | 20 | A70 | B20 | C10 | | | | | | | 無 | | | |
| 37 | 一関工業 | 電気電子 | | 40 | 有 | AB | 15 | 6 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| | | 電子機械 | | 40 | 有 | AB | 15 | 6 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| | | 土木 | | 40 | 有 | AB | 15 | 6 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| 38 | 花泉 | 普通 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A70 | B10 | C20 | | | | | | | 無 | | | |
| 39 | 大東 | 普通 | | 80 | 有 | A | 10 | 8 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| | | 情報ビジネス | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| 40 | 千厩 | 普通 | | 120 | 有 | A | 10 | 12 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| | | 生産技術 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| | | 産業技術 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| 41 | 高田 | 普通 | | 120 | 有 | A | 10 | 12 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| | | 海洋システム | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| 42 | 大船渡 | 普通 | | 160 | 有 | A | 10 | 16 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| 43 | 大船渡東 | 農芸科学 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| | | 機械電気 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| | | 情報処理 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| | | 食文化 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| 44 | 住田 | 普通 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A100 | | | | | | | | | 有 | 4 | | |
| 45 | 釜石 | 普通・理数 | | 160 | 有 | A | 10 | 16 | A70 | C30 | | | | | | | | 無 | <<り募集 | | |
| 46 | 釜石商工 | 機械 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A70 | B20 | C10 | | | | | | | 無 | | | |
| | | 電気電子 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A70 | B20 | C10 | | | | | | | 無 | | | |
| | | 総合情報 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A70 | B20 | C10 | | | | | | | 無 | | | |
| 47 | 大槌 | 普通 | | 80 | 有 | A | 10 | 8 | A100 | | | | | | | | | 有 | 8 | | |
| 48 | 山田 | 普通 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| 49 | 宮古 | 普通 | | 200 | 有 | A | 10 | 20 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| 50 | 宮古北 | 普通 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| 51 | 宮古商工 | 機械システム | | 40 | 有 | AB | 15 | 6 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| | | 電気システム | | 40 | 有 | AB | 15 | 6 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| | | 総合ビジネス | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| | | 流通ビジネス | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| | | 情報ビジネス | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| 52 | 宮古水産 | 海洋生産 | | 40 | 有 | AB | 15 | 6 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| | | 食物 | | 40 | 有 | AB | 15 | 6 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| 53 | 岩泉 | 普通 | | 80 | 有 | AB | 10 | 8 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| 54 | 久慈 | 普通 | | 160 | 有 | A | 10 | 16 | A70 | B10 | C20 | | | | | | | 無 | | | |
| 55 | 久慈東 | 総合 | | 200 | 有 | A | 10 | 20 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| 56 | 久慈工業 | 電子機械 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A70 | C30 | | | | | | | | 無 | | | |
| | | 建設環境 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A70 | C30 | | | | | | | | 無 | | | |
| 57 | 種市 | 普通 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| | | 海洋開発 | | 40 | 有 | B | 10 | 4 | A100 | | | | | | | | | 有 | — | | |
| 58 | 大野 | 普通 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| 59 | 軽米 | 普通 | | 80 | 有 | A | 10 | 8 | A100 | | | | | | | | | 無 | ※1 | | |
| 60 | 伊保内 | 普通 | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A100 | | | | | | | | | 有 | 4 | | |
| 61 | 福岡 | 普通 | | 160 | 有 | A | 10 | 16 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| 62 | 福岡工業 | 機械システム | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| | | 電気情報システム | | 40 | 有 | A | 10 | 4 | A100 | | | | | | | | | 無 | | | |
| 63 | 一戸 | 総合 | | 120 | 有 | AB | 15 | 18 | A100 | | | | | | | | | 有 | 5 | | |

| No | 学校名 | 学 科 名 | 定員 | 推薦入学者選抜実施の有無 | 一般入学者選抜 | | | | | | | | | | 定時制課程成人枠 | | | | | 備考 | | |
|------|-----------|-------|----|--------------|---|------|------|-----------------|----|-----------------|-----------|-----------------|-----------|----------|----------|----|---------|---------|-------------------|----|-----------|----------|
| | | | | | 選抜順序・割合(%) | | | 小論文又は作文、適性検査の有無 | | 小論文又は作文、適性検査の配点 | | 傾斜 その配点内容の有無 | 県外受入れ | | 面接方法 | | 作文又は小論文 | 適性検査の有無 | 面接、作文・小論文、適性検査の配点 | | | |
| | | | | | 学力検査:調査書・面接等 A=5:5 B=3:7 C=7:3 | | | | | | | | 有・無 | 人 | 個人 | 集団 | | | 面接 | | 作文 小論文 | 適性 検査 |
| | | | | | 学系・コース | | | I | II | III | 小論文 作文 | 適性 検査 | 小論文 作文 | 適性 検査 | | | | | | | | |
| 8-1 | 杜 陵 普 通 | 1・2部 | 80 | 無 | A 70 | B 20 | C 10 | | | | | 無 | | ○ | | 作文 | | 60 | 40 | | ※3 | |
| | | | 3部 | 20 | 無 | A 70 | B 20 | C 10 | | | | | 無 | | ○ | | 作文 | | 60 | 40 | | |
| 8-3 | 杜陵奥州 普 通 | 昼間部 | 30 | 無 | A 70 | C 20 | B 10 | | | | | 無 | | ○ | | 作文 | | 60 | 40 | | ※4 | |
| | | 夜間部 | 30 | 無 | A 70 | C 20 | B 10 | | | | | 無 | | ○ | | 作文 | | 60 | 40 | | | |
| 10-2 | 盛岡工業 工 業 | | 40 | 無 | A 100 | | | | | | | 無 | | ○ | | 作文 | | 50 | 50 | | | |
| 35-2 | 一関第一 普 通 | | 40 | 無 | A 100 | | | | | | | 無 | | ○ | | 作文 | | 100 | 100 | | | |
| 42-2 | 大 船 渡 普 通 | | 40 | 無 | A 100 | | | | | | | 無 | | ○ | | 作文 | | 100 | 50 | | | |
| 45-2 | 釜 石 普 通 | | 40 | 無 | A 100 | | | | | | | 無 | | ○ | | 作文 | | 100 | 50 | | | |
| 49-2 | 宮 古 普 通 | | 40 | 無 | A 100 | | | | | | | 無 | | ○ | | 作文 | | 100 | 100 | | | |
| 54-2 | 久慈長内 普 通 | 昼間部 | 40 | 無 | A 100 | | | | | | | 無 | | ○ | | 作文 | | 100 | 50 | | | |
| | | 夜間部 | 40 | 無 | A 100 | | | | | | | 無 | | ○ | | 作文 | | 100 | 50 | | | |
| 61-2 | 福 岡 普 通 | | 40 | 無 | A 100 | | | | | | | 無 | | ○ | | 作文 | | 50 | 50 | | | |

注 この表中の定員は、「岩手県立高等学校の管理運営に関する規則」第3条第2項の規定により、志願者数(調整後)によっては、減ずることがある。

No.1~No.63は全日制課程、No.8-1~No.61-2は定時制課程である。

※1 定員には、連携型合格者数を含めるものとする。

※2 定員には、併設型中学校からの入学決定者数を含む。学区外最大入学者数は33名とする。

※3 定員は前期日程の定員であり、このほか後期日程の定員は、1・2部40名、3部20名である。

※4 定員は前期日程の定員であり、このほか後期日程の定員は、昼間部10名、夜間部10名である。

令和3年度岩手県立特別支援学校高等部の学級数等について

1 学級設置の基本的考え方

障がいのある生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を行い、望ましい成長発達を促すとともに、社会参加と自立を図るため、教育諸条件を整える。

2 学級数の取扱い

県立特別支援学校高等部の在籍数及び入学希望見込みの増減等を勘案し、毎年度調整するものとする。

3 学級数の増減

【学級数が増加する学校】

| 学校名 | 対象障がい | 科・学級 | 令和3年度学級数 | 令和2年度からの増減 | 備考 |
|-----------|----------------|-------------------|-----------------|-----------------|----|
| 盛岡視覚支援学校 | 視覚障がい | 普通科・通常学級 | 1学級 (定員 8名) | 1学級増 (定員 8名) | |
| | | 保健医療科・通常学級 | 1学級 (定員 8名) | 1学級増 (定員 8名) | |
| 盛岡聴覚支援学校 | 聴覚障がい | 普通科・重複障害学級 | 2学級 (定員 6名) | 1学級増 (定員 3名) | |
| 盛岡となん支援学校 | 肢体不自由 | 普通科・重複障害学級 | 3学級 (定員 9名) | 1学級増 (定員 3名) | |
| 盛岡みたけ支援学校 | 知的障がい | 普通科・重複障害学級 | 5学級 (定員 15名) | 1学級増 (定員 3名) | |
| 盛岡ひがし支援学校 | 知的障がい | 普通科・重複障害学級 | 2学級 (定員 6名) | 1学級増 (定員 3名) | |
| 花巻清風支援学校 | 知的障がい・肢体不自由 | 普通科・通常学級 | 3学級 (定員 24名) | 1学級増 (定員 8名) | |
| 気仙光陵支援学校 | 知的障がい・肢体不自由 | 普通科・通常学級 | 2学級 (定員 16名) | 1学級増 (定員 8名) | |
| 一関清明支援学校 | 病弱・知的障がい・肢体不自由 | 普通科・通常学級 (病・肢) | 2学級 (定員 16名) | 1学級増 (定員 8名) | |
| 釜石祥雲支援学校 | 病弱・知的障がい・肢体不自由 | 普通科・通常学級 (知的) | 2学級 (定員 16名) | 1学級増 (定員 8名) | |

【学級数が減少する学校】

| | | | | | |
|----------|-------------|------------|----------------|-----------------|--|
| 気仙光陵支援学校 | 知的障がい・肢体不自由 | 普通科・重複障害学級 | 1学級 (定員 3名) | 1学級減 (定員 3名) | |
| 久慈拓陽支援学校 | 知的障がい・肢体不自由 | 普通科・重複障害学級 | 1学級 (定員 3名) | 1学級減 (定員 3名) | |

<参考>

平成30年度以降の県立特別支援学校高等部募集定員・学級数（訪問教育を除く）

| | 令和3年度 | | 令和2年度 | | 平成31年度 | | 平成30年度 | |
|--------|-------|------|-------|------|--------|------|--------|------|
| | 学級数 | 募集定員 | 学級数 | 募集定員 | 学級数 | 募集定員 | 学級数 | 募集定員 |
| 通常学級 | 35 | 280名 | 29 | 232名 | 32 | 256名 | 33 | 264名 |
| 重複障害学級 | 37 | 111名 | 35 | 105名 | 37 | 111名 | 41 | 123名 |
| 合計 | 72 | 391名 | 64 | 337名 | 69 | 367名 | 74 | 387名 |

※ 通常学級は、1学級8名定員を基準とする。

※ 重複障害学級は、1学級3名定員を基準とする。また、重複障害学級は1～3年を通じた学級である。

令和3年度岩手県立特別支援学校高等部・専攻科学級数及び入学予定者数一覧

| 対応障がい | 学校名 | 部 | 学科 | 学級数・人数 | | 備考 | |
|-------------|------------|-----|----------|--------|-------|------|------|
| 視覚障がい | 盛岡視覚支援学校 | 高等部 | 普通科 | 通常 | 1学級 | 8 | 1学級増 |
| | | | | 重複 | 1学級 | 3 | |
| | | 専攻科 | 保健医療科 | 通常 | 1学級 | 8 | 1学級増 |
| | | | | 理療科 | 通常 | 1学級 | |
| 聴覚障がい | 盛岡聴覚支援学校 | 高等部 | 普通科 | 通常 | 1学級 | 8 | 1学級増 |
| | | | | 重複 | 2学級 | 6 | |
| | | 専攻科 | 産業技術科 | 通常 | 1学級 | 8 | |
| 由不自体 | 盛岡となん支援学校 | 高等部 | 普通科 | 通常 | 1学級 | 8 | 1学級増 |
| | | | | 重複 | 3学級 | 9 | |
| 病弱 | 盛岡青松支援学校 | 高等部 | 普通科 | 通常 | 1学級 | 8 | |
| | | | | 重複 | 2学級 | 6 | |
| 知的障がい | 盛岡峰南高等支援学校 | 高等部 | 生活科学科 | 通常 | 4学級 | 32 | |
| | | | 農産技術科 | | | | |
| | | | 加工生産科 | | | | |
| | | | 流通・サービス科 | | | | |
| | 盛岡みたけ支援学校 | 高等部 | 普通科 | 通常 | 2学級 | 16 | 1学級増 |
| | | | | 重複 | 5学級 ※ | 15 | |
| | 二戸分教室 | 高等部 | 普通科 | 通常 | 1学級 | 8 | |
| | | | | 重複 | 1学級 ※ | 3 | |
| 盛岡ひがし支援学校 | 高等部 | 普通科 | 通常 | 2学級 | 16 | 1学級増 | |
| | | | 重複 | 2学級 ※ | 6 | | |
| 知的障がい・肢体不自由 | 花巻清風支援学校 | 高等部 | 普通科 | 通常 | 3学級 | 24 | 1学級増 |
| | | | | 重複 | 5学級 ※ | 15 | |
| | 前沢明峰支援学校 | 高等部 | 普通科 | 通常 | 3学級 | 24 | |
| | | | | 重複 | 4学級 ※ | 12 | |
| | 気仙光陵支援学校 | 高等部 | 普通科 | 通常 | 2学級 | 16 | 1学級増 |
| | | | | 重複 | 1学級 ※ | 3 | |
| | 宮古恵風支援学校 | 高等部 | 普通科 | 通常 | 2学級 | 16 | |
| | | | | 重複 | 4学級 ※ | 12 | |
| | 久慈拓陽支援学校 | 高等部 | 普通科 | 通常 | 2学級 | 16 | 1学級減 |
| | | | | 重複 | 1学級 ※ | 3 | |
| 自病由い弱・肢体的障 | 一関清明支援学校 | 高等部 | 普通科(知的) | 通常 | 3学級 | 24 | 1学級増 |
| | | | 普通科(病・肢) | 通常 | 2学級 | 16 | |
| | | | 普通科 | 重複 | 4学級 ※ | 12 | |
| | | | あすなる分教室 | 普通科 | 重複 | 1学級 | |
| 自病由い弱・肢体的障 | 釜石祥雲支援学校 | 高等部 | 普通科(知的) | 通常 | 2学級 | 16 | 1学級増 |
| | | | 普通科(病・肢) | 通常 | 1学級 | 8 | |
| | | | 普通科 | 重複 | 1学級 ※ | 3 | |
| | | | しゃくなげ分教室 | 普通科 | 重複 | 1学級 | |
| ハ訪問教育V | 盛岡となん支援学校 | 高等部 | 普通科 | | ※ | 若干名 | |
| | 盛岡みたけ支援学校 | | 普通科 | | ※ | 若干名 | |
| | 花巻清風支援学校 | | 普通科 | | ※ | 若干名 | |
| | 前沢明峰支援学校 | | 普通科 | | ※ | 若干名 | |
| | 一関清明支援学校 | | 普通科 | | ※ | 若干名 | |
| | 気仙光陵支援学校 | | 普通科 | | ※ | 若干名 | |
| | 釜石祥雲支援学校 | | 普通科 | | ※ | 若干名 | |
| | 宮古恵風支援学校 | | 普通科 | | ※ | 若干名 | |
| 久慈拓陽支援学校 | 普通科 | | ※ | 若干名 | | | |

※は1～3学年を通じた人数として示している。

議案第20号

岩手県立高等学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則

岩手県立高等学校の管理運営に関する規則（昭和32年岩手県教育委員会規則第3号）の一部を次のように改正する。

| 改正前 | | | | | | | 改正後 | | | | | | | | |
|---|----|--------|-----|--------|-----|--------|---|--------------|----|--------|-----|--------|-----|--------|-----|
| 別表第1 高等学校の全日制の課程、定時制の課程及び通信制の課程の学級編制（第3条関係） | | | | | | | 別表第1 高等学校の全日制の課程、定時制の課程及び通信制の課程の学級編制（第3条関係） | | | | | | | | |
| 学校名 | 区分 | 全日制の課程 | | 定時制の課程 | | 通信制の課程 | | 学校名 | 区分 | 全日制の課程 | | 定時制の課程 | | 通信制の課程 | |
| | | 学科名 | 学級数 | 学科名 | 学級数 | 学科名 | 学級数 | | | 学科名 | 学級数 | 学科名 | 学級数 | 学科名 | 学級数 |
| [略] | | | | | | | [略] | | | | | | | | |
| 岩手県立盛岡第四高等学校 | | 普通科 | 19 | [略] | | | | 岩手県立盛岡第四高等学校 | | 普通科 | 18 | [略] | | | |
| 岩手県立盛岡北高等学校 | | 普通科 | 17 | [略] | | | | 岩手県立盛岡北高等学校 | | 普通科 | 16 | [略] | | | |
| [略] | | | | | | | [略] | | | | | | | | |
| 岩手県立平舘高等学校 | | 普通科 | 4 | [略] | | | | 岩手県立平舘高等学校 | | 普通科 | 3 | [略] | | | |
| [略] | | | | | | | [略] | | | | | | | | |
| 岩手県立紫波総合高等学校 | | 総合学科 | 14 | [略] | | | | 岩手県立紫波総合高等学校 | | 総合学科 | 13 | [略] | | | |
| [略] | | | | | | | [略] | | | | | | | | |
| 岩手県立北上翔南高等学校 | | 総合学科 | 17 | [略] | | | | 岩手県立北上翔南高等学校 | | 総合学科 | 16 | [略] | | | |
| [略] | | | | | | | [略] | | | | | | | | |
| 岩手県立金ヶ崎高等学校 | | 普通科 | 8 | [略] | | | | 岩手県立金ヶ崎高等学校 | | 普通科 | 7 | [略] | | | |
| 岩手県立岩谷堂高等 | | 総合学科 | 13 | [略] | | | | 岩手県立岩谷堂高等 | | 総合学科 | 12 | [略] | | | |

| | | | | |
|--------------|--|--|------------------------------|-----|
| 学校 | | | | |
| 岩手県立一関第一高等学校 | | 普通科 [略] | 14 [略] | [略] |
| [略] | | | | |
| 岩手県立一関工業高等学校 | | 電気科 電気電子科 電子科 [略] | 2 1 2 [略] | [略] |
| [略] | | | | |
| 岩手県立大東高等学校 | | 普通科 [略] | 7 [略] | [略] |
| [略] | | | | |
| 岩手県立高田高等学校 | | 普通科 [略] | 11 [略] | [略] |
| [略] | | | | |
| 岩手県立大船渡東高等学校 | | 農芸科学科 機械科 機械電気科 電気電子科 情報処理科 [略] | 3 1 2 1 3 [略] | [略] |
| [略] | | | | |
| 岩手県立釜石高等学校 | | 普通科 [略] | 11 [略] | [略] |
| [略] | | | | |
| 岩手県立山田 | | 普通科 | 5 | [略] |

| | | | | |
|--------------|--|--------------------------------|--------------------|-----|
| 学校 | | | | |
| 岩手県立一関第一高等学校 | | 普通科 [略] | 13 [略] | [略] |
| [略] | | | | |
| 岩手県立一関工業高等学校 | | 電気科 電気電子科 電子科 [略] | 1 2 1 [略] | [略] |
| [略] | | | | |
| 岩手県立大東高等学校 | | 普通科 [略] | 6 [略] | [略] |
| [略] | | | | |
| 岩手県立高田高等学校 | | 普通科 [略] | 10 [略] | [略] |
| [略] | | | | |
| 岩手県立大船渡東高等学校 | | 農芸科学科 機械電気科 情報処理科 [略] | 3 3 3 [略] | [略] |
| [略] | | | | |
| 岩手県立釜石高等学校 | | 普通科 [略] | 10 [略] | [略] |
| [略] | | | | |
| 岩手県立山田 | | 普通科 | 4 | [略] |

| | | | | |
|--------------|---------|----|-----|--|
| 高等学校 | | | | |
| 岩手県立宮古高等学校 | 普通科 | 17 | [略] | |
| [略] | | | | |
| 岩手県立宮古商工高等学校 | 機械科 | 2 | [略] | |
| | 機械システム科 | 1 | | |
| | 電気電子科 | 2 | | |
| | 電気システム科 | 1 | | |
| | 建築設備科 | 2 | | |
| | 商業科 | 2 | | |
| | 総合ビジネス科 | 1 | | |
| | 流通経済科 | 2 | | |
| | 流通ビジネス科 | 1 | | |
| | 会計科 | 2 | | |
| | 情報科 | 2 | | |
| | 情報ビジネス科 | 1 | | |
| 岩手県立宮古水産高等学校 | 海洋技術科 | 1 | [略] | |
| | 海洋生産科 | 2 | | |
| | 食品家政科 | 1 | | |
| | 食物科 | 3 | | |
| [略] | | | | |

| | | | | |
|--------------|---------|----|-----|--|
| 高等学校 | | | | |
| 岩手県立宮古高等学校 | 普通科 | 16 | [略] | |
| [略] | | | | |
| 岩手県立宮古商工高等学校 | 機械科 | 1 | [略] | |
| | 機械システム科 | 2 | | |
| | 電気電子科 | 1 | | |
| | 電気システム科 | 2 | | |
| | 建築設備科 | 1 | | |
| | 商業科 | 1 | | |
| | 総合ビジネス科 | 2 | | |
| | 流通経済科 | 1 | | |
| | 流通ビジネス科 | 2 | | |
| | 会計科 | 1 | | |
| | 情報科 | 1 | | |
| | 情報ビジネス科 | 2 | | |
| 岩手県立宮古水産高等学校 | 海洋生産科 | 3 | [略] | |
| | 食物科 | 3 | | |
| [略] | | | | |

| | | | | |
|-----------------|-----|-----|-----------|-----|
| 岩手県 | 本校 | 普通科 | <u>13</u> | [略] |
| 立久慈 高等学 校 | [略] | | | |
| [略] | | | | |
| 岩手県 | | 普通科 | <u>4</u> | [略] |
| 立大野 高等学 校 | [略] | | | |
| [略] | | | | |
| 岩手県 | | 普通科 | <u>13</u> | [略] |
| 立福岡 高等学 校 | [略] | | | |
| [略] | | | | |

備考1 [略]

2 岩手県立大船渡東高等学校の機械科及び電気電子科並びに岩手県立宮古水産高等学校の海洋技術科及び食品家政科については、平成31年度以後の入学に係る生徒の募集を停止する。

3 [略]

| | | | | |
|-----------------|-----|-----|-----------|-----|
| 岩手県 | 本校 | 普通科 | <u>12</u> | [略] |
| 立久慈 高等学 校 | [略] | | | |
| [略] | | | | |
| 岩手県 | | 普通科 | <u>3</u> | [略] |
| 立大野 高等学 校 | [略] | | | |
| [略] | | | | |
| 岩手県 | | 普通科 | <u>12</u> | [略] |
| 立福岡 高等学 校 | [略] | | | |
| [略] | | | | |

備考1 [略]

2 [略]

備考 改正部分は、下線の部分である。

附 則

この規則は、令和3年4月1日から施行する。

令和2年10月22日提出

岩手県教育委員会教育長 佐 藤 博

理由

岩手県立学校設置条例の一部改正に伴い、県立高等学校の学科の廃止について所要の改正をするとともに、県立高等学校の学級数について定めようとするものである。これが、この規則案を提出する理由である。

岩手県立高等学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則案について

1 改正の趣旨

岩手県立学校設置条例の一部改正に伴い、県立高等学校の学科の廃止について所要の改正をするとともに、県立高等学校の学級数について定めようとするもの。

2 規則案の内容

(1) 県立高等学校の学科の廃止に伴い、次のとおり削ること。(別表第1関係)

| 学校名 | 区 分 | 課 程 | 学科名 | 学級数 |
|--------------|-----|-----|-------|-----|
| 岩手県立大船渡東高等学校 | | 全日制 | 機械科 | 1 |
| | | 全日制 | 電気電子科 | 1 |
| 岩手県立宮古水産高等学校 | | 全日制 | 海洋技術科 | 1 |
| | | 全日制 | 食品家政科 | 1 |

(2) 県立高等学校の学級数を次のとおり改めること。(別表第1関係)

| 学校名 | 区 分 | 課 程 | 学科名 | 学級数 | |
|--------------|-----|-----|-------|-----|-----|
| | | | | 現 行 | 改 正 |
| 岩手県立盛岡第四高等学校 | | 全日制 | 普通科 | 19 | 18 |
| 岩手県立盛岡北高等学校 | | 全日制 | 普通科 | 17 | 16 |
| 岩手県立平舘高等学校 | | 全日制 | 普通科 | 4 | 3 |
| 岩手県立紫波総合高等学校 | | 全日制 | 総合学科 | 14 | 13 |
| 岩手県立北上翔南高等学校 | | 全日制 | 総合学科 | 17 | 16 |
| 岩手県立金ヶ崎高等学校 | | 全日制 | 普通科 | 8 | 7 |
| 岩手県立岩谷堂高等学校 | | 全日制 | 総合学科 | 13 | 12 |
| 岩手県立一関第一高等学校 | | 全日制 | 普通科 | 14 | 13 |
| 岩手県立一関工業高等学校 | | 全日制 | 電気科 | 2 | 1 |
| | | 全日制 | 電気電子科 | 1 | 2 |
| | | 全日制 | 電子科 | 2 | 1 |
| 岩手県立大東高等学校 | | 全日制 | 普通科 | 7 | 6 |
| 岩手県立高田高等学校 | | 全日制 | 普通科 | 11 | 10 |
| 岩手県立大船渡東高等学校 | | 全日制 | 機械電気科 | 2 | 3 |
| 岩手県立釜石高等学校 | | 全日制 | 普通科 | 11 | 10 |
| 岩手県立山田高等学校 | | 全日制 | 普通科 | 5 | 4 |

| | | | | | |
|--------------|--|-----|---------|----|----|
| 岩手県立宮古高等学校 | | 全日制 | 普通科 | 17 | 16 |
| 岩手県立宮古商工高等学校 | | 全日制 | 機械科 | 2 | 1 |
| | | 全日制 | 機械システム科 | 1 | 2 |
| | | 全日制 | 電気電子科 | 2 | 1 |
| | | 全日制 | 電気システム科 | 1 | 2 |
| | | 全日制 | 建築設備科 | 2 | 1 |
| | | 全日制 | 商業科 | 2 | 1 |
| | | 全日制 | 総合ビジネス科 | 1 | 2 |
| | | 全日制 | 流通経済科 | 2 | 1 |
| | | 全日制 | 流通ビジネス科 | 1 | 2 |
| | | 全日制 | 会計科 | 2 | 1 |
| | | 全日制 | 情報科 | 2 | 1 |
| | | 全日制 | 情報ビジネス科 | 1 | 2 |
| 岩手県立宮古水産高等学校 | | 全日制 | 海洋生産科 | 2 | 3 |
| 岩手県立久慈高等学校 | | 全日制 | 普通科 | 13 | 12 |
| 岩手県立大野高等学校 | | 全日制 | 普通科 | 4 | 3 |
| 岩手県立福岡高等学校 | | 全日制 | 普通科 | 13 | 12 |

3 施行期日

この規則は、令和3年4月1日から施行すること。(附則関係)

令和3年度

県立学校の編制について

岩手県教育委員会

I 令和3年度 県立高等学校の編制について

1 課程別・学科別募集学級数及び募集定員

令和3年度の課程別・学科別募集学級数及び募集定員の状況は、次の表のとおりである。

| 区 分 | | | 募 集 学 級 数 | | | 募 集 定 員 | | |
|--------|-------------|----------------|-----------|-----|---|---------|-------|---|
| | | | 2年度 | 3年度 | 差 | 2年度 | 3年度 | 差 |
| 県 立 | 全 日 制 | 普通科・理数科 体育科 | 129 | 129 | 0 | 5,160 | 5,160 | 0 |
| | | 職業に関する学科 | 69 | 69 | 0 | 2,760 | 2,760 | 0 |
| | | 総合学科 | 26 | 26 | 0 | 1,040 | 1,040 | 0 |
| | | 小 計 | 224 | 224 | 0 | 8,960 | 8,960 | 0 |
| | 定 時 制 | 普通科 | 13 | 13 | 0 | 520 | 520 | 0 |
| | | 職業に関する学科 | 1 | 1 | 0 | 40 | 40 | 0 |
| | | 小 計 | 14 | 14 | 0 | 560 | 560 | 0 |
| 合 計 | | | 238 | 238 | 0 | 9,520 | 9,520 | 0 |

2 ブロック別募集学級数増減

令和3年度における募集学級数の増減はない。

3 学科改編

令和3年度における学科改編はない。

4 学校再編

令和3年度の再編を計画した高等学校はない。

5 年次進行に伴う県立高等学校の分校、課程及び学科の廃止 (岩手県立学校設置条例該当事項)

令和元年度から募集を停止しており、令和2年度をもって平成30年度入学生が卒業することから、令和3年度に学科を廃止するものである。廃止状況は次表のとおりである。

| ブロック | 学校名 | 課程 | 学科名 | 位置 |
|------|--------|-----|--------------------|-------|
| 気仙 | 大船渡東高校 | 全日制 | 機 械 科 電 気 電 子 科 | 大船渡市 |
| 宮古 | 宮古水産高校 | 全日制 | 海洋技術科 食品家政科 | 宮 古 市 |

II 令和3年度 県立特別支援学校の編制について

令和3年度に、県立特別支援学校の課程及び学科の変更はない。

令和 2 年度（2020 年度）

県立学校の編制について

岩手県教育委員会

I 令和2年度（2020年度） 県立高等学校の編制について

1 課程別・学科別募集学級数及び募集定員

令和2年度（2020年度）の課程別・学科別募集学級数及び募集定員の状況は、次の表のとおりである。

| 区 分 | | | 募 集 学 級 数 | | | 募 集 定 員 | | |
|--------|-------------|----------------|--------------------|-------------------|-----|--------------------|-------------------|------|
| | | | 平成31年度 (2019年度) | 令和2年度 (2020年度) | 差 | 平成31年度 (2019年度) | 令和2年度 (2020年度) | 差 |
| 県 立 | 全 日 制 | 普通科・理数科 体育科 | 136 | 129 | ▲7 | 5,440 | 5,160 | ▲280 |
| | | 職業に関する学科 | 72 | 69 | ▲3 | 2,880 | 2,760 | ▲120 |
| | | 総合学科 | 28 | 26 | ▲2 | 1,120 | 1,040 | ▲80 |
| | | 小 計 | 236 | 224 | ▲12 | 9,440 | 8,960 | ▲480 |
| | 定 時 制 | 普通科 | 13 | 13 | 0 | 520 | 520 | 0 |
| | | 職業に関する学科 | 1 | 1 | 0 | 40 | 40 | 0 |
| | | 小 計 | 14 | 14 | 0 | 560 | 560 | 0 |
| 合 計 | | | 250 | 238 | ▲12 | 10,000 | 9,520 | ▲480 |

2 ブロック別募集学級数増減

令和2年度（2020年度）のブロック別募集学級数増減の状況は、次の表のとおりである。

| ブロック等 | 募集学級数 (全日制・ 定時制) | 学校名 | 平成31年度(2019 年度)設置学科及 び募集学級数 | 令和2年度(2020 年度)設置学科及 び募集学級数 | 令和2年度(2020年度) 学級数増減 | | |
|-----------|------------------------------|--------|-----------------------------------|--|--|-----------------------|----------------------|
| | | | | | 学 科 | 増 | 減 |
| 盛岡 | 79→77 (全72,定5) | 盛岡北高校 | 普通 6 | 普通 5 | 普通 | | ▲1 |
| | | 紫波総合高校 | 総合 5 | 総合 4 | 総合 | | ▲1 |
| 岩手 中部 | 38→37 (全37,定0) | 北上翔南高校 | 総合 6 | 総合 5 | 総合 | | ▲1 |
| 胆江 | 26→25 (全23,定2) | 金ヶ崎高校 | 普通 3 | 普通 2 | 普通 | | ▲1 |
| 両磐 | 25→23 (全22,定1) | 一関第一高校 | 普通・理数 6 | 普通・理数 5 | 普通・理数 | | ▲1 |
| | | 一関工業高校 | 電気 1 電子 1 電子機械 1 土木 1 | 電気電子 1 電子機械 1 土木 1 | 電気 電気電子 電子 | 1 | ▲1 ▲1 |
| 気仙 | 15→14 (全13,定1) | 高田高校 | 普通 4 海洋システム 1 | 普通 3 海洋システム 1 | 普通 | | ▲1 |
| 釜石・ 遠野 | 17→16 (全15,定1) | 釜石高校 | 普通・理数 5 | 普通・理数 4 | 普通・理数 | | ▲1 |
| 宮古 | 21→17 (全16,定1) | 山田高校 | 普通 2 | 普通 1 | 普通 | | ▲1 |
| | | 宮古高校 | 普通 6 | 普通 5 | 普通 | | ▲1 |
| | | 宮古工業高校 | 機械 1 電気電子 1 建築設備 1 | | 機械 電気電子 建築設備 | | ▲1 ▲1 ▲1 |
| | | 宮古商業高校 | 商業 1 会計 1 情報 1 流通経済 1 | | 商業 会計 情報 流通経済 | | ▲1 ▲1 ▲1 ▲1 |
| | | 宮古商工高校 | | 機械システム 1 電気システム 1 総合ビジネス 1 流通ビジネス 1 情報ビジネス 1 | 機械システム 電気システム 総合ビジネス 流通ビジネス 情報ビジネス | 1 1 1 1 1 | |
| 久慈 | 16→16 (全14,定2) | | | | | | |
| 二戸 | 13→13 (全12,定1) | | | | | | |
| 合計 | 250 → 238 (全224定14) | | | | 普通 普通・理数 体育 農業 工業 商業 水産 家庭 総合 定時制 | 3 3 | ▲5 ▲2 ▲5 ▲4 |
| | | | | | 計 | 6 | ▲18 |

3 学科改編

令和2年度（2020年度）の学科改編の状況は、次の表のとおりである。

| ブロック等 | 学校名 | 平成31年度（2019年度）設置学科及び募集学級数 | 令和2年度（2020年度）設置学科及び募集学級数 | 理由 |
|-------|--------|--------------------------------|--------------------------|---|
| 両磐 | 一関工業高校 | 電気 1 電子 1 電子機械 1 土木 1 | 電気電子 1 電子機械 1 土木 1 | 少子化による生徒減少に対応し、かつ魅力ある学科構成とするため、生徒の進路希望の動向、地域産業のニーズ及び社会情勢の変化等を踏まえた学科改編を行うものである。 新たに設置する電気電子科は、電気科と電子科の教育課程を引き継ぎ、「電気」と「電子」の両方を学ぶことができる学習内容とする。 |

4 学校再編

新たな県立高等学校再編計画で、令和2年度（2020年度）の改編を計画した県立高校の状況は、次の表のとおりである。

| ブロック等 | 学校名 | 現行 | 改編内容 | 改編の目的 |
|-------|--------|--|--|---|
| 宮古 | 宮古商工高校 | 宮古工業高校 機械 1 電気電子 1 建築設備 1 宮古商業高校 商業 1 会計 1 情報 1 流通経済 1 | 【統合】 宮古商工高校 機械システム 1 電気システム 1 総合ビジネス 1 流通ビジネス 1 情報ビジネス 1 | 望ましい学校規模を確保して学校全体の教育環境を活力あるものとし、各学科の専門性を維持できるよう、既存校舎の施設を活用する校舎制により、工業、商業に関する学科を併せ持つ専門高校として、一層の充実を図るよう整備するものである。 |

5 年次進行に伴う県立高等学校の分校、課程及び学科の廃止

平成30年度から募集を停止しており、今年度をもって平成29年度入学生が卒業することから、令和2年度（2020年度）に県立高等学校の学科を廃止するものである。廃止状況は、次の表のとおりである。

| ブロック等 | 学校名 | 課程 | 学科名 | 位置 |
|-------|--------|-----|------------------|-----|
| 胆江 | 水沢農業高校 | 全日制 | 環境工学 1 生活科学 1 | 奥州市 |
| 釜石・遠野 | 釜石商工高校 | 全日制 | 電子機械 1 | 釜石市 |

II 令和2年度 県立特別支援学校の編制について

令和2年度（2020年度）に県立特別支援学校の課程及び学科の廃止はない。

平成31年度

県立学校の編制について

岩手県教育委員会

I 平成 31 年度 県立高等学校の編制について

1 課程別・学科別募集学級数及び募集定員

平成 31 年度の課程別・学科別募集学級数及び募集定員の状況は、次の表のとおりである。

| 区 分 | | | 募 集 学 級 数 | | | 募 集 定 員 | | |
|--------|-------------|----------------|-----------|-------|----|---------|--------|------|
| | | | 30 年度 | 31 年度 | 差 | 30 年度 | 31 年度 | 差 |
| 県 立 | 全 日 制 | 普通科・理数科 体育科 | 142 | 136 | ▲6 | 5,680 | 5,440 | ▲240 |
| | | 職業に関する学科 | 74 | 72 | ▲2 | 2,960 | 2,880 | ▲80 |
| | | 総合学科 | 29 | 28 | ▲1 | 1,160 | 1,120 | ▲40 |
| | | 小 計 | 245 | 236 | ▲9 | 9,800 | 9,440 | ▲360 |
| | 定 時 制 | 普通科 | 13 | 13 | 0 | 520 | 520 | 0 |
| | | 職業に関する学科 | 1 | 1 | 0 | 40 | 40 | 0 |
| | | 小 計 | 14 | 14 | 0 | 560 | 560 | 0 |
| 合 計 | | | 259 | 250 | ▲9 | 10,360 | 10,000 | ▲360 |

2 ブロック別募集学級数増減

平成31年度のブロック別募集学級数増減の状況は、次の表のとおりである。

| ブロック等 | 募集学級数 (全日制・ 定時制) | 学 校 名 | 30年度設置 学 科 及 び 募 集 学 級 数 | 31年度設置 学 科 及 び 募 集 学 級 数 | 31年度学級数増減 | | |
|-----------|------------------------------|--------|---|--------------------------------------|--|---|----------|
| | | | | | 学 科 | 増 | 減 |
| 盛岡 | 81→79 (全74,定5) | 盛岡第四高校 | 普通 7 | 普通 6 | 普通 | | ▲1 |
| | | 平館高校 | 普通 2 | 普通 1 | 普通 | | ▲1 |
| 岩手中部 | 38→38 (全38,定0) | | | | | | |
| 胆江 | 27→26 (全24,定2) | 岩谷堂高校 | 総合 5 | 総合 4 | 総合 | | ▲1 |
| 両磐 | 26→25 (全24,定1) | 大東高校 | 普通 3 | 普通 2 | 普通 | | ▲1 |
| 気仙 | 16→15 (全14,定1) | 大船渡東高校 | 農芸科学 1 機 械 1 電気電子 1 情報処理 1 食物文化 1 | 農芸科学 1 機械電気 1 情報処理 1 食物文化 1 | 機 械 電気電子 機械電気 | 1 | ▲1 ▲1 |
| 釜石・ 遠野 | 17→17 (全16,定1) | | | | | | |
| 宮古 | 22→21 (全20,定1) | 宮古水産高校 | 海洋技術 1 食品家政 1 食 物 1 | 海洋生産 1 食 物 1 | 海洋技術 食品家政 海洋生産 | 1 | ▲1 ▲1 |
| 久慈 | 18→16 (全14,定2) | 大野高校 | 普通 2 | 普通 1 | 普通 | | ▲1 |
| | | 久慈高校 | 普通 5 | 普通 4 | 普通 | | ▲1 |
| 二戸 | 14→13 (全12,定1) | 福岡高校 | 普通 5 | 普通 4 | 普通 | | ▲1 |
| 合計 | 259 → 250 (全236定14) | | | | 普通 普通・理数 体育 農業 工業 商業 水産 家庭 総合 定時制 | | ▲6 |
| | | | | | 計 | 2 | ▲11 |

3 学科改編

平成 31 年度の学科改編の状況は、次の表のとおりである。

| ブロック等 | 学 校 名 | 30 年 度 設 置 学 科 及 び 募 集 学 級 数 | 31 年 度 設 置 学 科 及 び 募 集 学 級 数 | 理 由 |
|-------|--------|---|--|--|
| 気仙 | 大船渡東高校 | 農芸科学 1 機 械 1 電気電子 1 情報処理 1 食物文化 1 | 農芸科学 1 機械電気 1 情報処理 1 食物文化 1 | 少子化による生徒減少に対応し、かつ魅力ある学科構成とするため、生徒の進路希望の動向、地域産業のニーズ及び社会情勢の変化等を踏まえた学科改編を行うものである。 新たに設置する機械電気科は、機械科と電気電子科の教育課程を引き継ぎ、「機械」と「電気」の両方を学ぶことができる学習内容とする。 |
| 宮古 | 宮古水産高校 | 海洋技術 1 食品家政 1 食 物 1 | 海洋生産 1 食 物 1 | 水産に関する専門教育の充実・維持を図りつつ、少子化による生徒減少に対応し、かつ魅力ある学科構成とするため、地域産業のニーズ、社会情勢の変化及び生徒の進路希望の動向等を踏まえた学科改編を行うものである。 新たに設置する海洋生産科は、海洋技術科の学習内容と食品家政科の学習内容をコース制で維持し、引き続き専門性の高い知識・技術を身に付けられる学習内容とする。 |

4 学校再編

平成 31 年度の再編を計画した県立高等学校はない。

5 年次進行に伴う県立高等学校の分校、課程及び学科の廃止

平成 31 年度の年次進行に伴う県立高等学校の課程及び学科の廃止はない。

II 平成 31 年度 県立特別支援学校の編制について

平成 31 年度に設置を予定している県立特別支援学校の状況は、次の表のとおりである。

| 学校名 | 教育の 対象者 | 開設 学部 | 課程 | 学科 | 修業年限 | 理 由 |
|---------------|------------|----------|-----|----|------|--|
| 盛岡ひがし 支援学校 | 知的障がい | 小学部 | | | 6年 | 盛岡みたけ支援学校の慢性的な教室不足の解消を軸とした盛岡地区の教育環境を整備するため、知的障がいを対象とした新設の特別支援学校を設置するものである。 |
| | | 中学部 | | | 3年 | |
| | | 高等部 | 全日制 | 普通 | 3年 | |

議案第 21 号

文化財の指定及び保持団体の認定並びに追加指定に関し議決を求めることについて
次のとおり文化財の指定及び保持団体の認定並びに追加指定をすることについて、議決を
求める。

1 岩手県指定無形民俗文化財の指定及び保持団体の認定

| 指定番号 | 名 称 | 保持団体 |
|----------|-----------------------|--------------------------------|
| 無民第 49 号 | たしろねんがつけんばい 田代念佛剣舞 | 岩手県宮古市区界 2 地割 310 田代念佛剣舞保存会 |

2 岩手県指定無形民俗文化財の追加指定

令和 2 年 4 月 7 日に指定した(1)の岩手県指定無形民俗文化財について、安政六年銘
獅子頭権現幕、獅子頭 2 頭、明治三十三年銘 神楽衣装 (千早) を追加指定し、(2)の
ように名称を変更する。

(1)

| 指定番号 | 名 称 | 保持団体 |
|----------|------------------|-------------------------------------|
| 無民第 48 号 | やきまきかぐら 八木巻神楽 | 花巻市大迫町外 川目第 5 地割 116 八木巻神楽保存会 |

(2)

| 指定番号 | 名 称 | 保持団体 |
|----------|--|-------------------------------------|
| 無民第 48 号 | やきまきかぐら つげたり 八木巻神楽 附 あんせいろくねんめい ししがしらごんげんまく 安政六年銘 獅子頭権現幕 ししがしら 2 とう 獅子頭 2 頭 めいじさんじゅうさんねんめい かぐらいししょう ちはや 明治三十三年銘 神楽衣装 (千早) | 花巻市大迫町外 川目第 5 地割 116 八木巻神楽保存会 |

令和 2 年 10 月 22 日提出

岩手県教育委員会教育長 佐 藤 博

理由

岩手県指定無形民俗文化財の指定及び保持団体の認定をし、並びに追加指定をしようとする
ものである。これが、この議案を提出する理由である。

諮 問 物 件 調 書

| | |
|---------------------------|--|
| 種 別 | 無形民俗文化財 |
| 名 称 ・ 員 数 | たしるねんぶつけんばい 田代念佛劍舞 |
| 所有者（保持者・団体） の住所・氏名（名称） | 岩手県宮古市区界 2 地割 310 田代念佛劍舞保存会 会長 <small>くろさわ りょういち</small> 黒澤 良一 |
| 文化財の所在場所 | 岩手県宮古市区界（旧川井村 <small>かどま</small> 門馬地区） |
| 指 定 理 由 | <p>田代念佛劍舞は、宮古市区界（旧川井村）に所在する民俗芸能で、主に盆供養として毎年 8 月 15 日に行われている。</p> <p>成立時期については、文化年間（1804-1817）に田代村の去石仙仁門<small>さりいしせんに（え）もん</small>が仙台七木田（七北田か）の酒屋に出稼ぎに行っていた最中に習い覚えて巻物を授与されたとの伝承がある。戦時中でも盆供養だけは欠かさずことなく行っていて、さらに、戦後早くから盛岡市で発表会を行うなど精力的に活動を行い、現在に至っている。過疎化が著しい地域ではあるが、地元の小中高生を中心に毎週継続して練習を行いその継承に努めているほか、保存会が地域行事を主催するなど、地域の核となって活躍している。</p> <p>芸態としては、太鼓、笛、鉦による囃子と扇などの道具を持った踊り手により構成され、芸能の内容は、回向（供養）<small>えこう</small>を目的とする儀礼的な「御墓踊」と、円陣となって踊る「劍舞」とに大別される。</p> <p>御墓踊は、渋草沢地区の田代念佛劍舞供養塔（昭和 51 年 10 月建立）前や去石地区の劍舞創始者の墓所で行われるほか、初盆の死者の墓前で門打ちとして欠かさず行われている。門打ちの後には、保存会員による「巻物開き」が行われる。このように、昔からの一連の儀式・儀礼を継続・保存しているものである。</p> <p>劍舞は、御墓踊の後に行われるほか、主に巻物開きの後に地区の集会所で披露している。独特の太鼓の拍子、扇や長刀をまわしながらの踊りなど、道具の使い方にも高い技量が認められるほか、かつて 10 演目存在した中で、現在においても 7 演目を継承している。</p> <p>同系統の念佛劍舞は、宮古、盛岡の各方面に成立しているが、その中において、宮古市岡村（現：箱石岡村）や盛岡市<small>ぜにかけ</small>銭掛（現：新庄字銭掛）などが田代からの伝承とされるほか、盛岡の大ケ生高館劍舞が、長期にわたる休止期から再開する際に田代から教わったとするなど、芸能を通しての周辺地域との多くの関わりがなされている。</p> <p>これらのことから、田代念佛劍舞は、古式の儀礼や芸能の形態、技能を現在に伝えていること、周辺地域における同系統の芸能との関係性を考える上で重要であること、さらには、今後も継続的に活動を行い、地域の中核としての役割が期待されることから、岩手県指定無形民俗文化</p> |

財として指定するのにふさわしいものとする。

【岩手県指定文化財指定基準】

第4 無形民俗文化財指定基準

2 民俗芸能

(2) 芸能の変遷の過程を示すもの

(3) 地域的特色を示すもの

【参考：宮古市指定無形民俗文化財（旧川井村指定）（指定年月日 平成元年12月12日）】

【参考写真】



御墓踊



劍舞 ^{たかだち} (高館)

諮 問 物 件 調 書

| | |
|--------------------------|---|
| 種 別 | 無形民俗文化財 (追加指定) |
| 名 称 ・ 員 数 | <p>やまきまきかぐら つげたり あんせいろくねんめい ししがしちごんげんまく 八木巻神楽 附 安政六年銘 獅子頭権現幕</p> <p>ししがしら とう 獅子頭 2頭</p> <p>めいじさんじゅうさんねんめい かぐらいしょう ちはや 明治三十三年銘 神楽衣装 (千早)</p> <p>※附以下を追加指定とするもの。</p> |
| 所有者 (保持者・団体) の住所・氏名 (名称) | <p>(保持団体)</p> <p>八木巻神楽保存会</p> <p>代表 佐々木 隆嗣(岩手県花巻市大迫町外川目 5-116)</p> <p>(附とする神楽資料の所有者)</p> <p>八雲神社 別当 佐々木 幸一 (岩手県花巻市大迫町外川目 6-17)</p> |
| 文化財の所在場所 | 岩手県花巻市大迫町外川目 |
| 指 定 理 由 | <p>八木巻神楽は花巻市大迫町外川目に鎮座する八雲神社の奉納神楽で、近世期以降の大迫外川目地区における神楽の変遷を顕著に示すものとして、岩手県指定文化財に指定されている (令和2年4月7日指定)。</p> <p>今回追加指定する物件は、「安政六年銘 獅子頭権現幕」(1枚)、「獅子頭」(2頭)、「明治三十三年銘 神楽衣装 (千早)」(1着)の神楽資料4点である。</p> <p>「安政六年銘 獅子頭権現幕」は、文字の流れから「白山妙理大権現」^{はくさんみょうり だいごんげん}と思われる銘が残っているが、意図的に文字消しを試みた痕跡があり、かつて八木巻を含む外川目地域に白山信仰が浸透していたことを伺わせると同時に、その後、明治時代初期の神仏分離令によって、「大権現」の使用ができなくなった歴史的な経過を示すものである。</p> <p>また、獅子頭権現幕は、傷むと米などを入れる袋に作り替えてしまうため、古いものを残している事例は殆どなく、まして江戸時代銘の入ったものは希少である。</p> <p>「獅子頭」については、大小2つがあり、年記はないものの、代々別当家に伝わるもので、形状などから古い時代のものと推測される。</p> <p>大きいものは、荒削りで素朴な作りであり、銘もないことから地域住民もしくは民間宗教者により作成されたことが推察される。また、獅子頭の内部には握りが付き、わずかではあるが歯を合わせた痕跡があることから、神社に奉安されるだけでなく、祈祷あるいは舞にも使用されていたことがわかる。一方で小さいものは、内部に握りが無く、祈祷のみに使用されたことが伺える。</p> <p>「明治三十三年銘 神楽衣装 (千早)」は、背面に「明治三十三年 奉納山神社 九月十二日 八木巻連中」と墨字で記されているが、このような銘のある神楽衣装が保存されていることは、周辺の神楽団体と比較しても貴重なものである。神楽衣装の千早は、神楽舞の中でも重要な「山の神舞」などの演目で着用される。この衣装から、八木巻神楽は明治時</p> |

| | |
|--|---|
| | <p>代には、祈祷の「権現舞」以外に神舞などの幕神楽の演目を行っていたことがわかる。</p> <p>以上、上記の神楽資料は、外川目地区における信仰の様相や神楽の芸能及びその継承の過程を示すものであり、八木巻神楽の価値を考える上で重要な資料であることから、追加指定としてその保護を図るべきである。</p> <p>【岩手県指定文化財指定基準】</p> <p>第4 無形民俗文化財指定基準</p> <p>2 民俗芸能</p> <p>(2) 芸能の変遷の過程を示すもの</p> <p>(3) 地域的特色を示すもの</p> |
|--|---|

【参考資料】

【安政六年銘 獅子頭権現幕】

銘：「安政六歳己未 □山妙理大権現 當村中 九月二十七」

素材：麻

寸法：縦（前）135.0 cm（後）180.0 cm

巾（頭部）87.0 cm（尾方向）100.0 cm

形状：紺地に白線7本が染め抜かれている麻布4枚で、円筒形に縫い合わせている。

幕の正面「奉納」の文字の上下部、および「九月二十七日」「當村中」の箇所数箇所に破損あり。

幕の裾部分の損傷が大きく欠損部あり。

幕の後面中央（白線5本の部分とその上部および左側）に破損あり。以外にも全体に小さな破損が複数ある。

神楽（獅子頭）幕の正面には、「安政六歳己未 □山妙理大権現 當村中 九月二十七」と染め抜かれている。このうち「□山妙理大権現」の文字は、意図的に消そうとした痕跡があり読みにくい。文字の流れから「白山妙理大権現」と推定される。

【獅子頭】2頭

◎獅子頭（大）

素材：木製（トチの木か）

寸法：縦36.5 cm 横（額）23.5 cm 奥行36.0 cm

高さ（額）19.3 cm（鼻）23.5 cm

形状：大型で鼻が17.5 cmと長いのが特徴的。顎が開閉でき（継ぎ手あり）、下顎には舌がある。額面とその左右には耳と毛髪（通常は紙で作る）を付けていた痕跡の穴が見られる。顔面には黒色、頭頂部・鼻穴・上下の顎部分には朱色（漆を使用か）、眼部には金色が施されていて、鼻には剣の形が彫られている。獅子頭権現を奉じる際の握りを有する。荒い削りで素朴な作りである。

銘：なし

◎獅子頭（小）

素材：木製（桐か）

寸法：縦19.0 cm 横（額）13.0 cm 奥行18.5 cm

高さ（額）13.0 cm（鼻）16.0 cm

形状：小型の獅子頭。全体に虫食い穴あり。痛みが進み、下顎部の欠損あり。獅子頭（大）同様に額面とその左右に耳と毛髪の痕跡の穴があり、薄くなっているが顔面には黒色・上下の顎部分には朱色が施されていて、鼻には剣の形が彫られている（舌なし）。握りはなく、舞うために活用されたものではないことがわかる。

銘：なし

【明治三十三年銘神楽衣装（千早）】 1着

銘：「明治三十三年 奉納山神社 九月十二日 八木巻連中」

素材：木綿か

寸法：身丈（背から）135.0 cm 巾 35.0 cm

衿丈 85.0 cm 袖丈 77.0 cm 袖巾 67.0 cm

形状：千早。模様のない白色地の布で作成されている。両袖口に細い組み紐が通してある。背面に、墨字で奉納時期と奉納者を記してある。

右袖裾の破損。背部分中央（「奉」文字の下部）が一部欠損。

写真①安政六年銘 獅子頭権現幕（正面）



（文字部拡大）



写真② 獅子頭（大）側面・正面・開口時内部



写真③獅子頭権現（小）側面・正面



写真④明治三十三年銘 神楽衣装（千早） 正面



議案第22号

教育表彰の受賞者に関し議決を求めることについて

次のとおり教育表彰の受賞者を決定することについて、議決を求める。

事績顕著者

1 学校教育分野（32人、4団体）

【学校教育】

多年にわたり優れた学校教育活動に取り組み、教育の振興に顕著な成果を挙げた。

- もりおかしりつじょうなんしょうがっこう
(1) 盛岡市立城南小学校
- とおのしりつちぶちしょうがっこう
(2) 遠野市立土淵小学校
- いわてけんりつもりおかしょうぎょうこうとうがっこうしゃしんぶ
(3) 岩手県立盛岡商業高等学校写真部

【学校保健】

[学校保健安全教育]

多年にわたり優れた保健指導等に取り組み、教育の振興に顕著な成果を挙げた。

- いわてけんりつだいてうこうとうがっこう
(1) 岩手県立大東高等学校

[学校医]

多年にわたり学校医として児童生徒の保健衛生の向上に尽力し、教育の振興に多大の貢献をした。

- わだ ひろやす
(1) 和田 博泰
- すずき としひさ
(2) 鈴木 利久
- いとう りょうすけ
(3) 伊東 亮助
- すずき のりひろ
(4) 鈴木 教敬
- おいかわ のぼる
(5) 及川 登
- てらさき こうじ
(6) 寺崎 公二
- あおき いずみ
(7) 青木 泉
- すずき たけとし
(8) 鈴木 武敏
- かめい あり
(9) 亀井 亜理

[学校歯科医]

多年にわたり学校歯科医として児童生徒の保健衛生の向上に尽力し、教育の振興に多大の貢献をした。

- (1) 柴田 理
しばた おさむ
- (2) 鈴木 伸
すずき しん
- (3) 榎山 義浩
ならやま よしひろ
- (4) 松木 和彦
まつき かずひこ
- (5) 鈴木 千枝子
すずき ちえこ
- (6) 佐藤 忠朋
さとう ただとも
- (7) 中島 喜栄
なかじま よしえ
- (8) 平井 東英
ひらい どうえい
- (9) 六本木 崇
ろっぽんぎ たかし
- (10) 八重樫 寿人
やえがし ひさと
- (11) 成田 兼久
なりた かねひさ
- (12) 金子 克彦
かねこ かつひこ
- (13) 狩野 敦史
かのう あつし
- (14) 高橋 良明
たかはし よしあき
- (15) 高橋 義和
たかはし よしかず
- (16) 横澤 茂樹
よこさわ しげき
- (17) 橋爪 正一
はしづめ しょういち
- (18) 中居 英司
なかい えいじ
- (19) 倉田 英生
くらた ひでお
- (20) 坂岡 丈利
さかおか たけとし
- (21) 中川 善浩
なかがわ よしひろ

[学校薬剤師]

多年にわたり学校薬剤師として児童生徒の保健衛生の向上に尽力し、教育の振興に多大の貢献をした。

- (1) 伊藤 和恵
いとう かずえ
- (2) 鳥谷 恵子
とや けいこ

2 社会教育分野（1人、4団体）

【社会教育活動の指導者】

多年にわたり社会教育行政や生涯学習の推進に尽力し、社会教育の振興に多大の貢献をした。

- (1) 澤村 よう子

【社会教育団体】

多年にわたり優れた活動を実践し、社会教育の振興に多大の貢献をした。

- (1) 一戸町立奥中山小学校PTA
いちのへちょうりつおくなかやましようがっこう
- (2) 奥州市立南都田小学校PTA
おうしゅうしりつなつたしようがっこう
- (3) 岩手県立遠野高等学校PTA
いわてけんりつとおのこうとうがっこう
- (4) 上郷しし踊り保存会
かみごうししおどりほぞんかい

3 学術・文化財分野（2人）

多年にわたり文化財の保護に尽力し、地域文化の振興に多大の貢献をした。

- (1) 沼山 源喜治
ぬまやま げんきち
- (2) 遠藤 勝博
えんどう かつひろ

4 教育行政分野（10人）

多年にわたり教育行政の推進に尽力し、教育の振興に多大の貢献をした。

- (1) 芳沢 莖子
よしざわ けいこ
- (2) 田村 えい子
たむら こ
- (3) 菊池 直子
きくち なおこ
- (4) 中村 弘樹
なかむら ひろき
- (5) 深澤 武志
ふかさわ たけし
- (6) 小菅 正晴
こすが まさはる
- (7) 佐藤 功
さとう こう
- (8) 三船 雄三
みふね ゆうぞう
- (9) 佐々木 康雄
ささき やすお
- (10) 河村 敏弘
かわむら としひろ

令和2年10月22日提出

岩手県教育委員会教育長 佐藤 博

理由

教育表彰として和田博泰ほか44人及び盛岡市立城南小学校ほか7団体を表彰しようとするものである。これが、この議案を提出する理由である。

議案第 22 号 教育表彰の受賞者に関し議決を求めることについて

事績顕著者の主な功績の内容は以下のとおり

1 学校教育分野〔32人、4団体〕

(1) 学校教育〔3団体〕

| 団体名 | 功績の内容 |
|-------------------------|---|
| 盛岡市立 城南小学校 | <p>【活動歴】20年</p> <p>【受賞歴】令和2年度子供の読書活動優秀実践校 文部科学大臣表彰 ほか</p> <p>長年にわたる国語科研究を中核として、各教科の年間指導計画に学校図書館の活用を位置付けた授業実践に取り組むとともに、地域のお話ボランティア団体との協働による読み聞かせ会やPTA活動と連動した親子読書等、学校・家庭・地域の連携による多様な読書活動を推進するなど、児童の言語能力の育成と読書意欲の向上に優れた成果を挙げた。</p> |
| 遠野市立 土淵小学校 | <p>【活動歴】23年</p> <p>【受賞歴】いわてユネスコ文化賞（2回）、遠野市教育文化奨励賞（2回） ほか</p> <p>昔話の伝承活動を全学年の学習に取り入れ、遠野地域に古くから伝わる「遠野物語」の理解と伝承に取り組むとともに、子ども達が学んだ語りの成果を地域の観光施設等において継続して披露するなど、学校と地域が連携した特色ある学習を展開し、児童の表現力育成と地域文化の振興に優れた成果を挙げた。</p> |
| 岩手県立 盛岡商業高等 学校写真部 | <p>【活動歴】72年</p> <p>【受賞歴】第43回2018 公益社団法人日本写真家協会 J P S 展 審査員特別賞、令和元年度全国高等学校総合文化祭写真部門 文化庁長官賞 ほか</p> <p>部内で定期的に講評会を開くなど、日頃から互いの作品について話し合い、切磋琢磨しながら創作活動に励んでいる。各種コンクールにも積極的に出品し、平成30年度の公益社団法人日本写真家協会 J P S 展で部として審査員特別賞を受賞したほか、個人でも令和元年度全国高等学校総合文化祭の文化庁長官賞をはじめ、多くのコンクール等で入賞に輝くなど、優れた成果を挙げた。</p> |

(2) 学校保健〔32人、1団体〕

ア 学校保健安全教育〔1団体〕

| 団体名 | 功績の内容 |
|----------------|---|
| 岩手県立 大東高等学校 | <p>【活動歴】6年</p> <p>【受賞歴】令和元年度第58回全日本学校歯科保健優良校表彰 優秀賞（文部科学大臣賞） ほか</p> <p>生涯に渡って歯や口の健康の保持増進ができる生徒の育成を目指し、学校歯科医と連携した総合的な歯科保健指導や生活習慣改善指導等の取組を学校を挙げて推進するなど、多年にわたり優れた保健指導に取り組み、顕著な成果を挙げた。</p> |

イ 学校医〔9人〕

多年にわたり学校医として児童生徒の保健衛生の向上に尽力し、教育の振興に多大の貢献をした。

- ① 和田 博 泰 (83歳) 盛岡市
- ② 鈴木 利 久 (61歳) 花巻市
- ③ 伊 東 亮 助 (61歳) 北上市
- ④ 鈴木 教 敬 (63歳) 奥州市
- ⑤ 及 川 登 (68歳) 一関市
- ⑥ 寺 崎 公 二 (62歳) 一関市
- ⑦ 青 木 泉 (68歳) 奥州市
- ⑧ 鈴木 武 敏 (68歳) 奥州市
- ⑨ 亀 井 亜 理 (61歳) 奥州市

ウ 学校歯科医〔21人〕

多年にわたり学校歯科医として児童生徒の保健衛生の向上に尽力し、教育の振興に多大の貢献をした。

- ① 柴 田 理 (68歳) 盛岡市
- ② 鈴木 伸 (64歳) 盛岡市
- ③ 檜 山 義 浩 (57歳) 葛巻町
- ④ 松 木 和 彦 (64歳) 矢巾町
- ⑤ 鈴木 千枝子 (64歳) 矢巾町
- ⑥ 佐 藤 忠 朋 (69歳) 矢巾町
- ⑦ 中 島 喜 栄 (63歳) 盛岡市
- ⑧ 平 井 東 英 (63歳) 盛岡市
- ⑨ 六本木 崇 (57歳) 紫波町
- ⑩ 八重樫 寿 人 (65歳) 花巻市
- ⑪ 成 田 兼 久 (62歳) 花巻市
- ⑫ 金 子 克 彦 (68歳) 花巻市
- ⑬ 狩 野 敦 史 (66歳) 花巻市
- ⑭ 高 橋 良 明 (65歳) 北上市
- ⑮ 高 橋 義 和 (64歳) 西和賀町
- ⑯ 横 澤 茂 樹 (65歳) 住田町
- ⑰ 橋 爪 正 一 (62歳) 大船渡市
- ⑱ 中 居 英 司 (61歳) 宮古市
- ⑲ 倉 田 英 生 (58歳) 宮古市
- ⑳ 坂 岡 丈 利 (60歳) 久慈市
- ㉑ 中 川 善 浩 (55歳) 一関市

エ 学校薬剤師〔2人〕

多年にわたり学校薬剤師として児童生徒の保健衛生の向上に尽力し、教育の振興に多大の貢献をした。

- ① 伊 藤 和 恵 (57歳) 一関市
- ② 鳥 谷 恵 子 (68歳) 久慈市

2 社会教育分野〔1人、4団体〕

(1) 社会教育活動の指導者〔1人〕

| 氏 名 | 功 績 の 内 容 |
|----------------|--|
| 澤 村 よう子 (65 歳) | <p>【活動歴】23 年【主な経歴】洋野町社会教育委員、岩手県食生活改善推進員団体連絡協議会副会長、洋野町食生活改善推進員協議会会長</p> <p>多年にわたり洋野町社会教育委員として社会教育行政に尽力するとともに、岩手県食生活改善推進員団体連絡協議会副会長等として生涯を通じた食育や健康づくりを推進するなど、社会教育及び生涯学習の振興に多大の貢献をした。</p> |

(2) 社会教育団体〔4団体〕

| 団 体 名 | 功 績 の 内 容 |
|----------------------|--|
| 一戸町立 奥中山小学校 P T A | <p>【活動歴】92 年【受賞歴】平成 25 年度岩手県 P T A 連合会年次表彰</p> <p>地域と連携して登下校時のあいさつ運動や交通安全指導等の取組を推進するとともに、奥中山小学校と隣接する盛岡みたけ支援学校奥中山校の児童や P T A との交流活動に積極的に取り組むなど、社会教育の振興に多大の貢献をした。</p> |
| 奥州市立 南都田小学校 P T A | <p>【活動歴】38 年【受賞歴】令和元年度岩手県 P T A 連合会年次表彰</p> <p>P T A の各専門部が教育力を高める多様な活動を推進するとともに、P T A が地域住民を招いて毎年開催する「世代ふれあい夏祭り」を通じて、学校・家庭・地域のつながりを強め、地域の活性化に取り組むなど、社会教育の振興に多大の貢献をした。</p> |
| 岩手県立 遠野高等学校 P T A | <p>【活動歴】70 年</p> <p>【受賞歴】令和元年度全国高等学校 P T A 連合会会長表彰（団体表彰）</p> <p>各学年 P T A が開催する研修会等により、家庭における教育力向上に取り組むとともに、「おやじの会」による文化祭での餅撒き企画や生徒会と連携したマナーアップ運動等、学校と連携した特色ある P T A 活動を展開するなど、社会教育の振興に多大の貢献をした。</p> |
| 遠野市上郷町 上郷しし踊り保存会 | <p>【活動歴】38 年【受賞歴】岩手県青少年育成県民会議表彰</p> <p>多年にわたり郷土の文化遺産である「しし踊り」の保存及び伝承活動に尽力するとともに、郷土芸能の継承を通じた「明るく豊かな地域づくり」に向け、学校や地域と一体となった取組を推進するなど、青少年の健全育成と社会教育の振興に多大の貢献をした。</p> |

3 学術・文化財分野〔2人〕

| 氏 名 | 功 績 の 内 容 |
|----------------|--|
| 沼 山 源喜治 (78 歳) | <p>【活動歴】 17 年 【主な経歴】 北上市文化財保護審議会会長、元岩手県考古学会会長、北上市史編さん委員会委員</p> <p>多年にわたり北上市文化財保護審議会会長等として県南地域を中心とした文化財の指定及び調査研究活動に尽力し、文化財の保護に多大の貢献をした。</p> |
| 遠 藤 勝 博 (79 歳) | <p>【活動歴】 20 年 【主な経歴】 岩手県文化財保護指導員、陸前高田市文化財調査委員、住田町文化財調査委員</p> <p>多年にわたり岩手県文化財保護指導員等として気仙地域を中心とした文化財の保存及び普及啓発活動に尽力し、文化財の保護に多大の貢献をした。</p> |

4 教育行政分野〔10人〕

多年にわたり教育行政の推進に尽力し、教育の振興に多大の貢献をした。

- (1) 芳 沢 莖 子 (69 歳) 前 岩手県教育委員会委員
- (2) 田 村 えい子 (72 歳) 岩手町教育委員会委員
- (3) 菊 池 直 子 (65 歳) 滝沢市教育委員会委員
- (4) 中 村 弘 樹 (53 歳) 花巻市教育委員会委員
- (5) 深 澤 武 志 (74 歳) 西和賀町教育委員会委員
- (6) 小 菅 正 晴 (63 歳) 一関市教育委員会教育長
- (7) 佐 藤 功 (69 歳) 前 釜石市教育委員会教育長
- (8) 三 船 雄 三 (65 歳) 普代村教育委員会教育長
- (9) 佐々木 康 雄 (71 歳) 普代村教育委員会委員
- (10) 河 村 敏 弘 (60 歳) 九戸村教育委員会委員

議案第23号

令和3年度岩手県教育委員会定期人事異動方針に関し議決を求めることについて
次のとおり令和3年度岩手県教育委員会定期人事異動方針を定めることについて、議決を求める。

令和3年度岩手県教育委員会定期人事異動方針

東日本大震災津波からの教育の復興に向けた取組を推進するとともに、「学びと絆で 夢と未来を拓き 社会を創造する人づくり」の実現等に向けて、「いわて県民計画（2019～2028）」及び「岩手県教育振興計画」に掲げる主要施策の積極的な推進と的確な対応を行うため、次に掲げるところにより教職員の意欲と能力を重視した人事配置を行い、もって組織能力の一層の向上を図るものとする。

また、学校への期待の高まりや学校教育課題の複雑・多様化に伴う業務負担が依然としてある中、教職員の健康の保持及び増進に加え、授業や授業準備等に集中できる環境の構築などの働き方改革の実現に向けた業務改善の強力な推進と、管理職のリーダーシップの発揮によるマネジメント機能の強化、学校が心理や福祉等の専門スタッフと連携し、組織として教育活動に取り組む「チーム学校」体制の整備・推進の観点にも配慮していくものとする。

1 東日本大震災津波からの教育の復興の推進

東日本大震災津波からの教育の復興に向け、地域の実情やニーズに配慮するとともに、防災教育をはじめとする「いわての復興教育」等を着実に推進するための人事配置に努める。

2 学校教育の充実の推進

確かな学力の育成、豊かな心の育成、健やかな体の育成、特別支援教育、いじめ問題・不登校対策等への確かな対応、学びの基盤づくりを着実に推進するための人事配置に努める。

3 社会教育・家庭教育の充実の推進

学校と家庭・地域との協働、子育て支援や家庭教育支援の充実、生涯にわたり学び続ける環境づくり、次世代につなげる郷土芸能や文化財の継承を着実に推進するための人事配置に努める。

4 管理職の役割の重視

学校経営においては、管理職のリーダーシップが重要であることから、管理職の任用については、以下のとおり行う。

(1) 管理職に相応しい人格、識見を重視するとともに、指導能力、組織運営能力、実績について総合的に評価し、年齢や性別、経験年数にとらわれることなく登用する。

なお、女性教職員が管理職を積極的に目指すことができる環境づくりや人材育成に努める。

(2) 管理職の在職期間については、学校経営の安定化の視点に配慮する。

5 組織能力及び個々の教職員のモチベーションの向上に向けた人事配置

(1) 所属長のヒアリングにおいては、個々の教職員について、今後従事したい業務に係る希望、適性、現在の職務の遂行状況及び健康状態、持病、家庭事情等についてもできるだけきめ細かく聴き取ることとし、人事配置に当たっては、それらの事情を踏まえ、個々の教職員のモチベーションの向上に努める。

(2) 各所属の職員構成については、年齢、経験年数等の適切なバランスに配慮する。

また、全県的視野から地域ごとの職員構成についても適切なバランスに配慮することとし、特に、県北・沿岸地区やへき地等の職員体制の充実に努める。

(3) 主幹教諭、指導教諭又は指導養護教諭については、学校において多様化・複雑化する諸課題に組織的・機動的に対応し、その役割がより効果的に発揮されるよう、学校規模等を総合的に考慮し

ながら配置する。

(4) 小中学校事務の共同実施体制の機能強化を図り、学校経営の充実に資するため、「事務長」の職の配置拡大を進める。

(5) 事務局と学校との異動、職種間及び校種間での異動を行うとともに、他の任命権者との間での人事交流を行う。また、主任等以下の若手事務職員については、ジョブローテーション等を考慮し、人材の育成と適性の把握が図られるよう配慮する。

6 その他

公的年金の報酬比例部分の支給開始年齢の引上げ（平成25年度以後60歳から65歳へと段階的に引上げ）に伴う雇用と年金の接続については、再任用制度の適切な運用により対応するよう配慮する。

令和2年10月22日提出

岩手県教育委員会教育長 佐藤 博

理由

令和3年度岩手県教育委員会定期人事異動方針を定めようとするものである。これが、この議案を提出する理由である。

岩手県教育委員会定期人事異動方針新旧対照表

| 令和2年度 | 令和3年度 |
|---|---|
| <p data-bbox="164 248 793 282">令和2年度岩手県教育委員会定期人事異動方針</p> <p data-bbox="164 333 793 703">東日本大震災津波からの教育の復興に向けた取組を推進するとともに、「学びと絆で 夢と未来を拓き 社会を創造する人づくり」の実現等に向けて、「いわて県民計画（2019～2028）」及び「岩手県教育振興計画」に掲げる主要施策の積極的な推進と的確な対応を行うため、次に掲げるところにより教職員の意欲と能力を重視した人事配置を行い、もって組織能力の一層の向上を図るものとする。</p> <p data-bbox="164 714 793 1173">また、学校への期待の高まりや学校教育課題の複雑・多様化に伴い、業務負担が増大している中、教職員の健康の保持及び増進に加え、授業や授業準備等に集中できる環境の構築などが求められていることから、「岩手県教職員 働き方改革プラン」に基づく業務改善の強力な推進、管理職のリーダーシップの発揮によるマネジメント機能の強化や、学校が心理や福祉等の専門スタッフと連携し、組織として教育活動に取り組む「チーム学校」体制の整備・推進の観点にも配慮していくものとする。</p> <p data-bbox="164 1227 793 1261">1 東日本大震災津波からの教育の復興の推進</p> <p data-bbox="188 1272 793 1473">東日本大震災津波からの教育の復興に向け、地域の実情やニーズに配慮するとともに、防災教育をはじめとする「いわての復興教育」等を着実に推進するための人事配置に努める。</p> <p data-bbox="164 1527 793 1561">2 学校教育の充実の推進</p> <p data-bbox="188 1572 793 1774">確かな学力の育成、豊かな心の育成、健やかな体の育成、特別支援教育、いじめ問題・不登校対策等への確かな対応、学びの基盤づくりを着実に推進するための人事配置に努める。</p> <p data-bbox="164 1827 793 1861">3 社会教育・家庭教育の充実の推進</p> <p data-bbox="188 1872 793 2074">学校と家庭・地域との協働、子育て支援や家庭教育支援の充実、生涯にわたり学び続ける環境づくり、次世代につなげる郷土芸能や文化財の継承を着実に推進するための人事配置に努める。</p> | <p data-bbox="818 248 1447 282">令和3年度岩手県教育委員会定期人事異動方針</p> <p data-bbox="818 333 1447 703">東日本大震災津波からの教育の復興に向けた取組を推進するとともに、「学びと絆で 夢と未来を拓き 社会を創造する人づくり」の実現等に向けて、「いわて県民計画（2019～2028）」及び「岩手県教育振興計画」に掲げる主要施策の積極的な推進と的確な対応を行うため、次に掲げるところにより教職員の意欲と能力を重視した人事配置を行い、もって組織能力の一層の向上を図るものとする。</p> <p data-bbox="818 714 1447 1128">また、学校への期待の高まりや学校教育課題の複雑・多様化に伴う業務負担が依然としてある中、教職員の健康の保持及び増進に加え、授業や授業準備等に集中できる環境の構築などの働き方改革の実現に向けた業務改善の強力な推進と、管理職のリーダーシップの発揮によるマネジメント機能の強化、学校が心理や福祉等の専門スタッフと連携し、組織として教育活動に取り組む「チーム学校」体制の整備・推進の観点にも配慮していくものとする。</p> <p data-bbox="818 1227 1447 1261">1 東日本大震災津波からの教育の復興の推進</p> <p data-bbox="842 1272 1447 1473">東日本大震災津波からの教育の復興に向け、地域の実情やニーズに配慮するとともに、防災教育をはじめとする「いわての復興教育」等を着実に推進するための人事配置に努める。</p> <p data-bbox="818 1527 1447 1561">2 学校教育の充実の推進</p> <p data-bbox="842 1572 1447 1774">確かな学力の育成、豊かな心の育成、健やかな体の育成、特別支援教育、いじめ問題・不登校対策等への確かな対応、学びの基盤づくりを着実に推進するための人事配置に努める。</p> <p data-bbox="818 1827 1447 1861">3 社会教育・家庭教育の充実の推進</p> <p data-bbox="842 1872 1447 2074">学校と家庭・地域との協働、子育て支援や家庭教育支援の充実、生涯にわたり学び続ける環境づくり、次世代につなげる郷土芸能や文化財の継承を着実に推進するための人事配置に努める。</p> |

4 管理職の役割の重視

学校経営においては、管理職のリーダーシップが重要であることから、管理職の任用については、以下のとおり行う。

- (1) 管理職に相応しい人格、識見を重視するとともに、指導能力、組織運営能力、実績について総合的に評価し、年齢や性別、経験年数にとらわれることなく登用する。

なお、女性教職員が管理職を積極的に目指すことができる環境づくりや人材育成に努める。

- (2) 管理職の在職期間については、学校経営の安定化の視点に配慮する。

5 組織能力及び個々の教職員のモチベーションの向上に向けた人事配置

- (1) 所属長のヒアリングにおいては、個々の教職員について、今後従事したい業務に係る希望、適性、現在の職務の遂行状況及び健康状態、持病、家庭事情等についてもできるだけきめ細かく聴き取ることとし、人事配置に当たっては、それらの事情を踏まえ、個々の教職員のモチベーションの向上に努める。

- (2) 各所属の職員構成については、年齢、経験年数等の適切なバランスに配慮する。

また、全県的視野から地域ごとの職員構成についても適切なバランスに配慮することとし、特に、県北・沿岸地区やへき地等の職員体制の充実に努める。

- (3) 主幹教諭、指導教諭又は指導養護教諭については、学校において多様化・複雑化する諸課題に組織的・機動的に対応し、その役割がより効果的に発揮されるよう、学校規模等を総合的に考慮しながら配置する。

- (4) 小中学校事務の共同実施体制の機能強化を図り、学校経営の充実に資するため、「事務長」の職の配置拡大を進める。

- (5) 事務局と学校との異動、職種間及び校種間での異動を行うとともに、他の任命権者との間での人事交流を行う。また、主任等以下の若手事務職員については、ジョブローテーション等を考慮し、人材の育成と適性の把握が図られるよう配慮する。

4 管理職の役割の重視

学校経営においては、管理職のリーダーシップが重要であることから、管理職の任用については、以下のとおり行う。

- (1) 管理職に相応しい人格、識見を重視するとともに、指導能力、組織運営能力、実績について総合的に評価し、年齢や性別、経験年数にとらわれることなく登用する。

なお、女性教職員が管理職を積極的に目指すことができる環境づくりや人材育成に努める。

- (2) 管理職の在職期間については、学校経営の安定化の視点に配慮する。

5 組織能力及び個々の教職員のモチベーションの向上に向けた人事配置

- (1) 所属長のヒアリングにおいては、個々の教職員について、今後従事したい業務に係る希望、適性、現在の職務の遂行状況及び健康状態、持病、家庭事情等についてもできるだけきめ細かく聴き取ることとし、人事配置に当たっては、それらの事情を踏まえ、個々の教職員のモチベーションの向上に努める。

- (2) 各所属の職員構成については、年齢、経験年数等の適切なバランスに配慮する。

また、全県的視野から地域ごとの職員構成についても適切なバランスに配慮することとし、特に、県北・沿岸地区やへき地等の職員体制の充実に努める。

- (3) 主幹教諭、指導教諭又は指導養護教諭については、学校において多様化・複雑化する諸課題に組織的・機動的に対応し、その役割がより効果的に発揮されるよう、学校規模等を総合的に考慮しながら配置する。

- (4) 小中学校事務の共同実施体制の機能強化を図り、学校経営の充実に資するため、「事務長」の職の配置拡大を進める。

- (5) 事務局と学校との異動、職種間及び校種間での異動を行うとともに、他の任命権者との間での人事交流を行う。また、主任等以下の若手事務職員については、ジョブローテーション等を考慮し、人材の育成と適性の把握が図られるよう配慮する。

| | |
|---|---|
| <p>6 その他</p> <p>公的年金の報酬比例部分の支給開始年齢の引上げ（平成25年度以後60歳から65歳へと段階的に引上げ）に伴う雇用と年金の接続については、再任用制度の適切な運用により対応するよう配慮する。</p> | <p>6 その他</p> <p>公的年金の報酬比例部分の支給開始年齢の引上げ（平成25年度以後60歳から65歳へと段階的に引上げ）に伴う雇用と年金の接続については、再任用制度の適切な運用により対応するよう配慮する。</p> |
| <p>変更理由</p> | <p>所要の整理を行うこととしたこと。（前文関係）</p> |